

# 高きを學べ

学習の手引き



2026年度  
長野県伊那北高等学校  
3学年



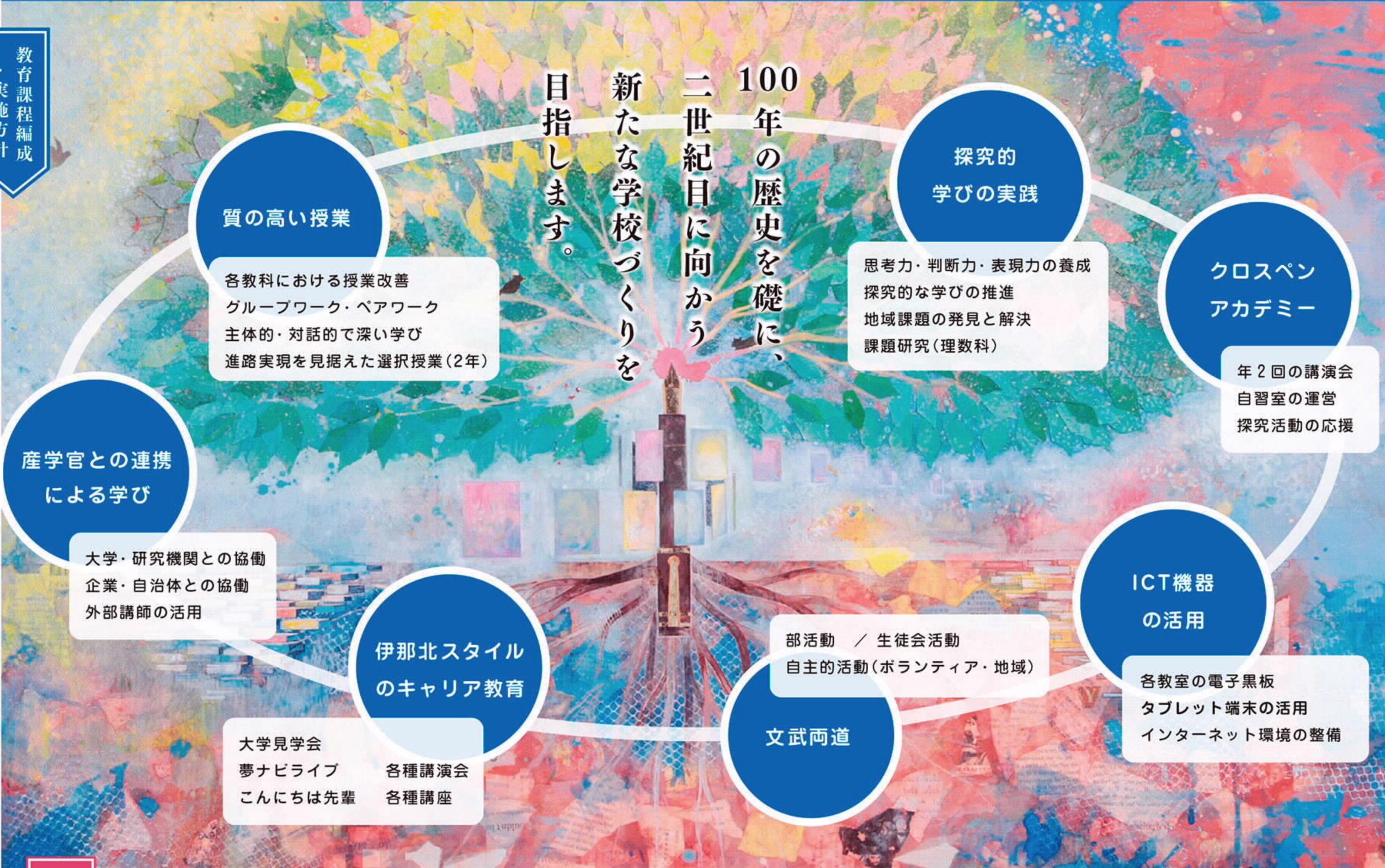
# 「たぐえてゆかむ」 長野県伊那北高等学校のグランドデザイン

学校教育目標

- ① 平和を希求し、真理と正義を探究する資質を養う。
- ② 躍如として学業にいそむ。
- ③ 自主・自立の精神を養い、個性の伸長をはかる。
- ④ 自由と責任を重んじ、努力を惜しまない態度を養う。

## 充実した 学習活動

教育課程編成  
・実施方針



## 進路実現のためのカリキュラム

- ★ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた、PDCAサイクルを活用した授業改善。
- ★ ICTの効果的な活用と主体性、協働性などの学ぶ姿勢の涵養。
- ★ 探究心を高めるために、感性を磨き「豊かな人間性」を育む課題発見から解決に向けた学習活動。
- ★ 医学・医療、理工、人文社会、芸術、教員養成など様々な分野に関する産官学、高大中と連携した学び。
- ★ 地域への理解を深め、グローバルな視点で社会に貢献していく力を育てる地域と連携した学び。

生徒募集方針

伊那北高校での3年間で充実させたいと考えている次のような生徒諸君を待っています。

- 自己実現、進路実現のために大学進学を考えている生徒
- 他者と協働しながら主体的に物事に取り組みたいと考えている生徒
- 様々なことに興味、関心を抱き、追求しようとする姿勢のある生徒
- 学習以外にも熱心に取り組みたいものがある生徒
- 将来、地域のリーダーを目指したい、日本・世界で活躍したいと考えている生徒
- 自然科学に高い関心があり、大学の理学部、工学部、医学部、薬学部、農学部などで学び、この方面で活躍したいと考えている生徒(理数科)

## 育てたい生徒像

生徒育成方針

- ★ 広い視野と柔軟な発想力を持ち、社会を広義にイノベーション(刷新)できる生徒。
- ★ たくましい精神力と豊かな人間性、本物の知性を備えた社会をリードする生徒。
- ★ 探究心を持ち、自ら考え自ら行動するとともに、他者と協働する力を持つ生徒。
- ★ 社会の中で自己有用感を持ち、世界、地域での役割を自覚できる生徒。
- ★ 地域で必要とされる人材、世界で必要とされる人材を目標とする生徒。

# I 教育課程と学習について

## (1) 教育課程とは

高等学校で学ぶ教育内容には、教科・科目の学習活動、総合的な探究の時間（理数科は課題研究で代替）、クラブやホームルーム等の特別活動があります。

教育課程とは、教育関係諸法令や本校の教育目標・指導内容に従いその目的を達成する為に、皆さんの心身の発達に応じ、学ぶ順序や授業時間数・単位数を定めたものです。

## (2) 学習の評価と単位の履修、修得

### ア. 「単位」とは

50分間の授業が1年間に35回行われる事を1単位と言います。従って時間割の中で1年間に学ぶ教科・科目の総単位数は33単位ですから、皆さんが1年間に学ぶ教科学習の総時間は、 $50分 \times 35回 \times 30単位 = 52,500分$ (875時間:約36.5日分)です。本校ではこの総時間を55分授業によって学んでいく事になります。

授業は大切ですが、学ぶ内容や学習量からみてこの時間数だけで理解し習熟する事は不可能です。休み時間や自宅での時間を有効に活用して、学習内容が定着することを期待しています。

### イ. 「履修」とは

全ての高校生が基礎教養として必ず学ばなければならないと定められた科目を、必履修科目と言います。この必履修科目を含め本校では別表の通り、3年間で100単位を履修します。各科目について、年間授業時間数の3/4以上出席し、且つ積極的に学習活動に参加したと認められた時、その科目を「履修」と認定されます。

出席時間数が少なかったり、学習活動が不十分と判断され、その科目の履修が認められなかったりした場合は、再度履修しなければなりません。この場合、3年間での卒業は困難となります。従ってどの教科についても全て履修を認定される様に、授業の欠席や遅刻をしない様にし、更に学習活動にも積極的に取り組まなければなりません。健康に留意し規則正しい学校生活が出来る様に心掛けて下さい。

### ウ. 学習の「評価」

学習成績は、定期考査や課題テストの結果と日常の学習活動(提出すべき課題・レポート等)を総合して評価されます。

各教科・科目の学習目標に従い、評価は「5段階」と3つの観点による観点別評価により示されます。その結果は、各学期末に本人に通知しますので、評価の結果を謙虚に受け止め、次の学習への励みとしましょう。

### エ. 単位の「修得」と進級・卒業

学年末に、各教科・科目について履修したと認められ且つその教科・科目の定めた目標に到達していると評価されると、その科目の単位を「修得」と認定されます。

各学年で学ぶべき教科・科目について、本校で定めた単位数以上の単位の修得が認められて卒業となります。

出席時間数の不足や不十分な学習活動等で単位の「履修」「修得」を認められない科目があると、3年間での卒業は困難となります。ですから日常の学習活動に真剣に取り組み、単に本校の卒業を目指すだけでなく、所期の目標を達成する努力をして下さい。

### (3) 普通科の教育課程について

調和のとれた人格の陶冶と、目標意識を持って自ら学ぶ意欲を高め主体的に学習にとり組み、個性や能力を伸ばす事を願って、別表の様に2・3学年に選択科目を用意しました。選択科目は、文系希望者で14単位、理系希望者で7単位です。多くの科目を学習することで、ものごとをいろいろな角度から考えられるようになります。くれぐれも「受験に使わないから勉強しません」などと無責任なことは言わず、自分が選択した道に最後まで責任をもって臨みましょう。



【普通科】

教育課程表

(令和6年度入学生適用)

学校番号		伊那北高等学校 全日制 普通科														合計	備考
教科	科目(○は必修)	標準 単位数	1年		2年				3年								
			必修	選択	学際コース 必修	文系コース 必修	理系コース 必修	学際コース 学1	文系コース 文1 文2 文3			理系コース 理1 理2					
国語	○現代の国語	2	2													2	
	○言語文化	2	2													2	
	古典探究	4				2		2		3	3	3	3	3		0,5	
	*教養現代文	4										3◎				0,3	
	*考究現代文			2		2		2	2	2	2	2	2	2		4	
	*考究古典			2					3							0,5	
	*発展古典								3☆	3☆	3☆	3☆				0,3	
*発展現代文								3◎	3◎	3◎	3				0,3		
*国語探究				2○△		2○△									0,2		
地理歴史	○地理総合	2	2													2	3年の理系
	○地理探究	3			2○△		2○△		3△◎	3△◎	3△◎	3△◎	4	4	0,2,3,4,5	4単位物から1つ	
	○歴史総合	2	2												2	or	
	○歴史探究	3			2○△		2○△		3△◎	3△◎	3△◎	3△◎	4	4	0,2,3,4,5	2単位物から2つ	
公民	○世界史探究	3			2○△		2○△		3△◎	3△◎	3△◎	3△◎			0,2,3,5		
	○公民	2		2		2		2							2		
	倫理	2							3☆	3☆	3☆	3☆			0,3		
数学	政治・経済	2							3△☆	3△☆	3△☆	3△☆	4	4	0,3,4		
	○数学I	3	3												3		
	数学II	4		4		4		4							0,4		
	数学III	3											3		0,3		
	数学A	2	2												2		
	数学B	2		1		1		1							0,1		
	数学C	2		1		1		1					2		0,1,3		
	*数学研究I								3	3	3			3	0,3		
	*数学研究II								2	2				2	4	0,2,4	
	理科	○物理基礎	2	2												2	
○化学基礎		2		2 <sup>②</sup>		2 <sup>②</sup>		2							0,2		
○生物基礎		2	2												2		
○地学基礎		2		2		2									0,2		
物理		4						2 <sup>②</sup>					3 <sup>③</sup>	3 <sup>③</sup>	0,5		
化学		4						2					3	3	0,5		
生物		4						2					3	3	0,5		
*基礎生物・地学									3 <sup>③</sup>	3 <sup>③</sup>	3 <sup>③</sup>				0,3		
*基礎化学・生物								3	3	3				0,3			
保健体育	○体育	7~8	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	7		
	○保健	2	1	1	1	1	1								2		
	*保健体育総合										2○	2○			0,2		
芸術	○音楽I	2	2 <sup>②</sup>												0,2		
	音楽II	2			2△		2△								0,2		
	音楽III	2							3◎	3◎	3◎	3◎			0,3		
	○美術I	2	2												0,2		
	美術II	2			2△		2△								0,2		
美術III	2							3◎	3◎	3◎	3◎			0,3			
外国語	○英語コミュニケーションI	3	3												3		
	英語コミュニケーションII	4				4		4							0,4		
	英語コミュニケーションIII	4							3	3	3	3	3	3	0,3		
	論理・表現I	2	2												2		
	論理・表現II	2				2		2							0,2		
	論理・表現III	2							2	2	2	2	2	2	0,2		
	*学際英語αII			4											0,4		
	*学際英語βII			2											0,2		
	*ブラクティカルイングリッシュS										2○	2○			0,2		
	*ブラクティカルイングリッシュW								3◎	3◎	3◎	3			0,3		
*英語探究								3◎☆	3◎☆	3◎☆	3◎☆			0,3			
*英語総合				2○△		2○△								0,2			
家庭	○家庭基礎	2	2												2		
	*ライフデザイン										2○	2○			0,2		
情報	○情報I	2													2		
	各教科・科目の単位数計		29	25	4	25	4	29	30	30	30	30	30	30	88		
総合的な探究の時間		3~6	1			2									1,3		
*学際探究															0,2		
小計			30	31		31		31	30	30	30	30	30	30	91		
ホームルーム活動		3	1			1					1				3		
合計			31	32		32		32	31	31	31	31	31	31	94		

注1 \*印は学校設定科目  
 注2 同じマーク(○△◎☆)の科目からはそれぞれ1つずつ選択する。なお、同じ科目を選択することはできない。  
 ・2年次の○△においては、いずれかで地歴科目を少なくとも1つは選択する。  
 ・3年次の△◎においては、いずれかで地歴科目を少なくとも1つは選択する。  
 注3 2年次の『化学』においては『化学基礎』を履修してから履修する。  
 注4 \*学際コースの総合的な探究の時間は学際探究で代替

#### (4) 理数科の教育課程について

理数科の設置にあたり、次の教育目標・指導方針を定めました。

##### ア. 「理数科の教育目標」

自然科学や数学に興味・関心を持ち、且つその分野に優れた資質・能力を有する生徒に対して、科学的に思考し創造する能力と態度を養う為、計画的・組織的な教育を行う。

##### イ. 「理数科の学習方針」

- 1) 調和のとれた豊かな人間形成を目指す。
- 2) 自分の資質・能力を引き出し、更に高める。
- 3) 地域の信頼に応え、社会に貢献出来る人物となる事を目指す。

この教育目標・学習方針に従い、別表の様な教育課程が定められました。選択科目はありませんが、既に理数科で学びたいという目的意識を持った皆さんには十分対応出来ると思います。また専門科目(数学・理科)以外の教科の単位数が普通科とほぼ同様なのは、調和のとれた豊かな人間形成を願い、特定の教科・科目に偏らない幅広い教養を培って欲しいとの願いからです。

##### ウ. 専門教科・科目について

理数科の専門教科・科目(数学・理科)の教科書は発行されていないので、普通科と同じ種類の教科書を用います。数学、理科の授業時間数が普通科よりも多い分は、実験・実習・演習等で内容を深めます。また教科書の記述を越えた内容について参考書、問題集、プリント等で補いながら授業が進められます。

さらに授業時間や放課後の時間等を利用して「課題研究」に取り組みます。課題研究は、数学・理科の分野から課題を選び、自らその課題に基づいて調査、研究等を行います。また、その成果の発表会も行なわれます。(1年次1単位、2年次2単位)

【理数科】

教育課程表

(令和6年度入学生適用)

学校番号		伊那北高等学校 全日制 理数科										
教 科	科 目 (○は必修)	標準 単位数	1年	2年		3年		合計	備 考			
			必修	必修	選択	必修	選択					
国 語	○ 現 代 の 国 語	2	2					2				
	○ 言 語 文 化	2	2					2				
	古 典 探 究	4			2 ア		3 ア	0,5				
	* 考 究 現 代 文			2		2		4				
	* 考 究 古 典				2 イ		3 イ	0,5				
	* 発 展 現 代 文						3◎ イ	0,3				
	* 発 展 古 典						3☆ イ	0,3				
	* 国 語 探 究				2○△ イ			0,2				
地理歴史	○ 地 理 総 合	2	2					④	2			
	地 理 探 究				2○△ イ		3△◎ イ	4 ア	0,2,3,4,5			
	○ 歴 史 総 合	2	2						2			
	日 本 史 探 究				2○△ イ		3△◎ イ	4	0,2,3,4,5			
	世 界 史 探 究				2○△ イ		3△◎ イ		0,2,3,5			
公 民	○ 公 共 倫 理	2		2				3☆ イ	0,3			
	政 治 ・ 経 済							3△☆ イ	4	0,3,4		
数 学	* 数 学 研 究 I							3 イ	0,3			
	* 数 学 研 究 II							2 イ	0,3			
保 健 体 育	○ 体 育	7~8	2	2			3		7			
	○ 保 健	2	1	1					2			
芸 術	○ 音 楽 I	2	2	②					0,2			
	音 楽 II	2			2△ イ				0,2			
	音 楽 III	2					3◎ イ		0,3			
	○ 美 術 I	2	2						0,2			
	美 術 II	2			2△ イ				0,2			
	美 術 III	2					3◎ イ		0,3			
外 国 語	○ 英 語 コミュニケーション I	3	3						3			
	英 語 コミュニケーション II	4			4 ア				0,4			
	英 語 コミュニケーション III	4					3 アイ		3			
	論 理 ・ 表 現 I	2	2						2			
	論 理 ・ 表 現 II	2			2 ア				0,2			
	論 理 ・ 表 現 III	2					2 アイ		2			
	* 学 際 英 語 α II				4 イ				0,4			
	* 学 際 英 語 β II				2 イ				0,2			
	* プラクティカルインテグレーション						3◎ イ		0,3			
	* 英 語 探 究						3◎☆ イ		0,3			
* 英 語 総 合				2○△ イ				0,2				
家 庭	○ 家 庭 基 礎	2	2						2			
情 報	○ 情 報 I	2		2					2			
理 数	理 数 探 究 基 礎	1	1						1			
	理 数 探 究	2~5		2					2			
普通教科・科目の単位数計			21	9	10, 14	3	14, 24	59,73				
主 関 与 設 計 され 専 門 学 科 科 目 に お け る 理 数 科 目	【理数】	理 数 数 学 I	4~8	4					4			
		理 数 数 学 II	7~14	1	6			5 ア	7,12			
		理 数 数 学 特 論	2~6					2 ア		0,2		
		理 数 物 理	3~10	3		2	② ア	3	③ ア	3,5,6,7		
		理 数 化 学	3~10			4 ア	2 イ	②	3 ア	1 イ	①	0,7
		理 数 生 物	3~10	3		2			3	2 イ	3,4,5,6,7	
		理 数 地 学	3~10				2 イ			1 イ	0,3	
専門教科・科目の単位数計			11	6	2, 6	0	3, 13	23, 37				
各教科・科目の単位数計			32	15	16	3	30	93				
総合的な探究の時間			3~6						理数探究基礎・理数探究で3単位代替			
小計			32	15	16	3	27	93				
ホームルーム活動			3	1	1				3			
合計			33	32	32	31	96					

注1 \*は学校設定科目。  
 注2 1年次の『理数数学II』においては『理数数学I』を履修してから履修する。  
 注3 選択科目は、アもしくはイのどちらか一方を選択する。  
 注4 同じマーク(○△◎☆)の科目からはそれぞれ1つずつ選択する。なお、同じ科目を選択することはできない。  
 ・2年次の○△においては、いずれかで地理科目を少なくとも1つは選択する。  
 ・3年次の△◎においては、いずれかで地理科目を少なくとも1つは選択する。

学期	学校行事	定期考査・進路学習	模擬試験	月	国公立大学	私立大学	
前期	春季クラスマッチ	課題テスト 進路希望調査	18・19 全統共テ模試①	4	各大学募集要項公開 ↓	総合型選抜 出願	
	南信総体	面接週間 PTS進路講演会(代ゼミ)	24 全統記述模試①	5			総合型選抜 出願
	県・北信越総体	学校推薦型選抜一斉指導 第1回定期考査		6			総合型選抜 出願
	ペン祭	三者懇談会	4 進研総合記述模試	7			総合型選抜 出願
	夏季休業	信大・難関大突破講座	25・26 全統オープン模試	8			総合型選抜 出願
		(オープンキャンパスなど) 卒業生と語る会	5・6 全統共テ模試② 8・9 難関大オープン模試 22 全統記述模試②				総合型選抜 出願
	合唱コンクール 秋季クラスマッチ	第2回定期考査	5・6 駿台ベネ共催共テ模試 26・27 全統共テ模試③	9			総合型選抜 出願
後期		面接週間	10 駿台ベネ共催記述模試 17 全統記述模試③ 25・26 全統オープン模試	10	試験	試験	
			7・8 駿台実践模試(東大・京大) 12・13 全統共テプレ模試	11	合格発表	試験	
		第3回定期考査	共テシュミレーションテスト	12	試験	試験	
	年末年始休業	I 期特編授業	面接週間		合格発表	試験	
				1	16・17 大学入学共通テスト	試験	
		II 期特編授業	各大学突破講座	30・31 東大・京大プレ模試	一般選抜 出願	試験	
		自宅研修	小論文・面接 個別指導	2	前期 25 試験	試験	
					中期 6 合格発表	試験	
	卒業式			3	後期 8 試験 12 試験 20 合格発表	合格発表	

※私立は3月末まで実施される入試もある

## 令和 8 年度(2026 年度) 3 学年模試スケジュール

月 日	模 試 名	区分	指 針
4月18日(土) 19日(日)	第1回 全統共通テスト模試 [河合塾]	全員	3年生では全統の「共通テスト模試」と「記述模試」のセットを3回行う。この3回分を通じて、大学入試本番の形式に慣れていくと共に、 <b>模試の結果をもとに今後の勉強計画を立てよう。</b>
5月24日(日)	第1回 全統記述模試 [河合塾]	全員	マークと記述のドッキング判定が出るほか、この模試から浪人生を含めた結果となる。マーク形式の模試でマークシートの記入や自己採点に慣れていくと共に、記述形式の模試で基礎科目である国数英と選択科目の理社の実力を確認しよう。
7月 4日(土)	総合学力記述模試 [ベネッセ]	全員	部活やペン祭が終わり、 <b>本格的に受験生としての活動が始まるこの時期に、この記述模試にて今の実力を確認しよう。</b> 模試が終わったらすぐに振り返りを行い、夏休み中の勉強計画を立てよう。
夏季休業中 7月 25日(土) 26日(日)	全統オープン模試 [河合塾]	希望者	この模試は <b>特定の難関大学を目指す生徒が受験</b> しており、問題もその大学の個別入試に即した問題が出題されている。各大学の過去問や実践模試・オープン模試を活用し問題傾向に慣れ、今後の勉強の計画をたてるきっかけにしよう。
8月 8日(土) 9日(日)	駿台東大・京大実践模試	希望者	
夏季休業中 8月 5日(水) 6日(木)	第2回 全統共通テスト模試 [河合塾]	全員	全統模試のマークと記述のセット模試の2回目。この模試で <b>夏休みまでの学習の成果を確認</b> しよう。 引き続きマーク形式の模試に慣れていくと共に、記述力としての実力を高めていきたい。基本的な記述力が無いとマーク式での高得点が望めないことを意識し、記述模試の振り返りをベースに勉強を進めていこう。
8月22日(土)	第2回 全統記述模試 [河合塾]	全員	
9月 5日(土) 6日(日)	共催共通テスト模試 [駿台・ベネッセ]	全員	駿台とベネッセの共催模試で、マーク式と記述式のセットで実施される。共通テスト模試は、全国40万人の受験生が参加し共通テストに近い母集団で実施される。記述模試とのドッキング判定も行われる。
10月10日(土)	共催記述模試 [駿台・ベネッセ]	全員	記述模試はベネッセの「Compass」を使った <b>志望校判定システムの2次試験学力の判定</b> に用いられる重要な模試。

9月 26日(土) 27日(日)	第3回 全統共通テスト模試 [河合塾]	全員	共通テストと同じ形式、同じスケジュールで行われる模試。この模試ではリスニングにICプレーヤーを使用する。 全統のマークと記述がセットで行われる3回目の模試。ドッキング判定が出る最後の模試であり、ここまでの勉強の成果を確認したい。 記述模試の結果は、共通テストの結果と合わせて「バンザイシステム」という志望校判定システムの2次試験学力の判定に用いられる、記述力を試す集大成の模試である。
10月 17日(土)	第3回 全統記述模試 [河合塾]	全員	
10月 24日(土) 25日(日)  11月 7日(土) 8日(日)	全統オープン模試 [河合塾] 駿台実践模試	希望者	特定の大学を目指す生徒が受験しており、問題も各大学の個別入試に即した問題が出題されている。自分の目指す大学の模試があれば是非とも受験して問題傾向に慣れ、実力を判断したい。(東大・京大・北大・東北大・東工大・一橋大・名大・阪大・神大・九大)
11月 12日(木) 13日(金)	全統共通テストプレ模試 [河合塾]	全員	現時点での自分の仕上がり具合を判断してあと2カ月頑張りたい。
12月中	共通テストシュミレーション	希望者	実際の共通テストの試験場所でテストを受けることができる貴重な機会である。共通テストの最後の模試である。
1月 31日(土) 2月 1日(日)	東大京大本番プレテスト [河合塾]	希望者	共通テストが終了し、東大京大を受験する事を決めた者を対象としたテスト。

## \*小論文模試

小論文模試のねらいとしては、大学入試の受験科目として取り上げられていることはもちろんですが、それ以上に深いねらいがあります。

第一には「深く考える力をつけることです。ただ、教えられていることを覚えるといった学習の力だけでなく、自分自身で、ある問題点を見つけてそのことについて深く考えていくという「探求心」です。この力は、大学などに進学し自ら研究テーマを設定し自分なりに確固たる結論を導き出すといった学問、また、人生においての目的、生きる力をつけていくための力と位置づけて考えています。つまり、大学入試などで、この「小論文」を設定しているのも探求して学ぶ力を試していると考えられます。

第二には、「書く」という行為は自分の表現したいことを、より明確に整理しなくては論理的に書くことはできません。これは、社会で生きていくうえでも大切な力であるということはいまでもありません。そのような人間関係・社会性を身につけていくためにも必要であると言えます。

7月予定	小論文模試	希望者	信州予備学校講師の講演後(仮)
9月予定	小論文模試	希望者	志望大学の入試科目にあるものは必ず受験したい。

## IV 進路について考えよう

### 1 志望校選択のポイント

- ① 明確な目的意識を持つ  
何を学びたいのか？／将来どんな職業に就きたいのか？
- ② 教育・研究内容を調べる  
どんな先生がいて、どんな講座があるのか？／どんな環境で、どんな施設があるのか？
- ③ 取得できる資格・卒業後の進路を確認する  
どんな資格が取れるのか？／卒業生の就職・進学の様子は？
- ④ 難易度を調べる  
どの程度の学力があればいいのか？
- ⑤ 入試科目を調べる  
年度ごとに状況が変わることがある。常に最新情報に注目しておこう  
国公立→共通テストの科目は？／2次試験の科目は？  
私立→共通テスト利用は？／試験科目は？
- ⑥ 費用を調べる  
受験にかかる費用は？／入学後に必要な費用は？

### 2 進路決定の参考となるもの

- ① 進路指導室  
進路担当の先生が常駐していて、様々な相談や資料提供に応じてくれる。
- ② 学級担任および教科担任  
先生方の経験や蓄積された知識、情報、ノウハウを役立てないのはもったいない。自分だけで悩まずにおおいに先生を活用しよう。
- ③ 家族の意見  
自分の適性、性格、思いを一番よくわかり、もっとも真剣に心配してくれるのが家族です。非常に高額な受験費用や学費・生活費を負担してくれるのも家族です。家族のみなさんの理解と協力があつてはじめて進路実現が可能となるのです。家族全員から支援されるような進路希望と学習・生活状況でありたいものです。
- ④ 友人・仲間・先輩  
友人との情報交換や励まし合いが、進路決定の大きな要因となることがあります。しかし、怠けてしまったときの慰めあいは禁物。
- ⑤ 情報誌・新聞・TV・インターネットなど  
現代社会は様々な情報で溢れています。自分に必要な情報を選んで上手に利用できればおおいに参考になります。しかし、必要以上に情報を過信したり惑わされたりするのも危険です。何を参考にしてよいかわからなくなったら、担任の先生や進路担当の先生などに相談するとよいでしょう。

### 3 合格するために

#### ① 不合格の原因（浪人生のアンケートより）

- |  |     |
|--|-----|
| (1) 受験勉強のスタートが遅かった                               | 82% |
| (2) 苦手科目克服の対策をしなかった                              | 76% |
| (3) 日によって勉強時間にムラがあった                             | 60% |
| (4) 教科書を軽視して、基礎基本が身に付いていなかった                     | 49% |
| (5) 「ながら勉強」をしていて、集中力が足りなかった                      | 46% |
| (6) 「なんとかなるさ」と、入試を甘く見ていた                         | 46% |
| (7) 授業に集中していなかった                                 | 43% |
| (8) 授業中、板書を写すだけの受け身の勉強をしていた<br>自分の勉強方法が定まっていなかった | 43% |
| (9) 志望校決定が遅かった                                   | 35% |
| (10) 一日の勉強時間が足りなかった                              | 32% |

#### ② 合格するためのポイント

- (1) 家庭学習を継続する
- (2) 苦手科目を早めに克服する（英数国は特に早めに）
- (3) 時間を上手に使う（授業に集中する。家庭での時間の使い方を工夫する）

先輩の経験談

- ・授業をおろそかにしたため、後で取り返すのが大変だった。
- ・夕食までを復習に、夕食後を予習にした。
- ・就寝前に翌日の学習計画を立て、ノートに記入した。翌日はノートをみながら学習し、最後に計画通りできたか確認してそれに基づいてまた翌日の計画を立てた。この繰り返しで規則正しい無駄のない生活ができた。

- (4) 基礎・基本を身につける（授業を大切に。教科書の記述を暗記するほどに）

入試問題における教科書・授業レベルからの出題率
共通テスト…………… 100%
4年制大学（国公立二次・私立）の大半…………… 80%以上

- (5) 受け身でない学習方法を身につける（予習→授業→復習の流れを）
- (6) 早くから目標を定め、目標達成のための計画を立てる
- (7) 体を鍛える（受験勉強には体力が必要。体育の授業も真剣に）

## V 入試システム解説

国公立大、私立大ともに入試には「一般選抜」「総合型選抜」「学校推薦型選抜」の3種類があります（順に、旧称「一般入試」「AO入試」「推薦入試」）。

ここでは、まず全ての受験方式において重要になる「共通テスト」について説明した後、国公立大学及び私立大学における個別の選抜方法について説明します。

### 1 大学入学共通テスト

共通テストは毎年1月中旬の土・日曜の2日間に全国で一斉に実施され、毎年約50万人以上が受験する日本最大規模の試験です。今年度は、**1月16日（土）17日（日）**に実施されます。国公立大学の一般入試受験者は、原則、共通テストを受験しなければなりません。また、多くの私立大学でもセンター試験の成績が利用できる「共通テスト利用方式」を設定しています。大学進学を考える受験生にとって、この共通テスト対策は必須といっても過言ではないでしょう。次ページに昨年度入試の日程を載せてあるので確認してみましょう。

#### ・共通テストの主な特徴

共通テストは国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語、情報7教科21科目で構成され、受験生は、志望大学が指定する教科・科目を選択して受験することになります。

それぞれの試験時間帯で受験できる科目は、地理歴史・公民と理科は最大2科目（理科①を選択した場合は3科目）、そのほかの教科は1科目となっています。また、「英語」の受験者には、「リーディング」とは別の時間帯で実施される「リスニング」が必須となっています。

出題は全教科とも「マークシート方式」で実施されます。問題はそれぞれの教科の基礎の部分をしっかり身につけているかどうかにより重点が置かれています。それほど難問が出題されることはなく、高校の授業や教科書の内容を着実に身につけていれば解答できる問題です。ただし、科目によっては問題数が多く、解答するスピードが要求されます。

「英語」受験者は必須となっているリスニング対策も欠かせません。リスニングは各受験者に配られるICプレーヤーで実施されます。試験内容はもとより、その独特な試験形式にも慣れるべく、予備校等が実施する模擬試験を活用するなど、しっかりと準備をおきましょう。

#### ・大学入学共通テストの特徴

大学入学共通テストの特徴は、単に知識の量を問うのではなく、知識の質を問うこと、そして、思考力・判断力・表現力をいかして解く問題が多く出題されるという点です。具体的には、授業において学習する場面、社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面、資料やデータなどを基に考察する場面などが設定されること、文章・図・資料などの複数の情報を提示し、必要な情報を読み取る力や、読み取った情報を比較したり組み合わせたりして、課題を解決する力を問うことを意識した問題が出題されそうです。これを踏まえ、読解量や情報量が増加します。正確で深い知識の理解とともに、素早く正確に読解すること、情報を素早く処理する力が求められています。

**（大学入試センターからの情報は、別紙1参照）**

## 2 国公立大学入試のしくみ

### (1) 一般選抜

共通テストと、各大学の個別試験（二次試験）からなりたっています。

#### ① 共通テストの利用について

共通テストの利用方法は各大学（学部・学科）に任されています。教科・科目、配点などは大学ごとに異なります。**最新情報に常に注意しておく姿勢が必要です。**

##### ・ 傾斜配点

各科目均等ではなく、科目によって配点を高くしたり低くしたりする配点方式。試験科目等の多い国公立大で広く採用されています。共通テストの場合、一定基準として国語は200点、その他の教科は各100点の配点で採点しますが、この配点で採点した得点を、そのまま使用する大学ばかりではありません。英語のリーディングとリスニングの配点比率（基準は各100点）も同様です。大半の大学は独自に各教科の配点を定め、その配点に換算して各受験生の得点を算出します。共通テストと個別（二次試験）の合計でみると、各学部・学科で重視する科目にウェートをかけて配点しています。

##### ・ 自己採点

センター試験は終了後に正答例や各枝間の配点が新聞などで公表されます。受験生は自分の解答を問題用紙にメモを取っておき、自分の予想得点を計算できます。国公立出願の前に発表される平均点などを参考に自分の得点から判断して、個別試験（二次試験）に出願する大学を選び、個別試験に出願します。従って、自己採点の正確性が重要です。

#### ② 個別試験（二次試験）

国公立大学は前期日程及び後期日程で行われます。同じ大学・学部に2回チャレンジすることもできます。後期日程は募集人員が少ないのが現状で、近年後期日程を取りやめ、前期日程に絞ったり、後述する総合型選抜や学校推薦型選抜に募集人員を振り分けたりする例も見られます。ただし、後期試験まで受験することによって合格を勝ち取る事例も多くあることから、粘り強く試験に挑戦する姿勢が重要だといえます。

また、一部の公立大学では中期日程での試験や、別日程での試験も行われています。こちらも視野に入れて大学出願の検討をすることになります。なお、前期日程に合格して入学手続きをした人は、後期日程や中期日程を受験しても、合格する権利を失うことになるので、要注意です。

具体的な試験科目は、一部の大学を除いて、2～3教科で実施されるケースがほとんどです。小論文や面接を課されることもあり、この傾向は近年強まっています。志望校や関心のある大学の要項を取り寄せて、必ず入試科目・配点等をチェックしましょう。

### (2) 総合型選抜

出願条件は、評定平均値といった成績基準がなかったり、高卒生でも出願できたりするなど、推薦入試より緩やかな場合が多いです。ただし、大学によっては「英検などの有資格者」「全国コンテストの上位入賞者」といった条件が加わっていることもあります。

また、調査書等の出願書類だけでなく、(1) 各大学が実施する評価方法等（例：小論文、プレゼンテーション、口頭試問、実技、各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績等）、もしくは(2) 「大学入学共通テスト」の少なくともいずれか一つの活用を必須化することとしています。また、志願者本人の記載する資料（活動報告書、入学希望理由書、学修計画書等）を積極的に活用することとしています。

### (3) 学校推薦型選抜

一般選抜との大きな違いは、出身高校長の推薦を受けないと出願できないという点です。出願にあたっては「調査書の評定平均値〇以上」といった出願条件も設定されており、誰もが受験できる入試というわけではありません。また、一般選抜とは違い多くの大学では、基本的に「出願者は、合格した場合は必ず

入学する者に限る」専願制の入試となっています。

推薦入試を考える場合は、出願するうえで制約があることと、原則第1志望校に限った入試であることを理解しておきましょう。受験にあたっては、推薦入試向けの準備も必要です。

実際の試験では、調査書等の出願書類だけでなく、(1)各大学が実施する評価方法等(例:小論文、プレゼンテーション、口頭試問、実技、各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績等)もしくは(2)「大学入学共通テスト」の少なくともいずれか一つによる評価が必須化されています。また、推薦書において(1)本人の学習歴や活動歴を踏まえた「学力の3要素」に関する評価を記載すること、及び(2)大学が選抜でこれらを活用することのどちらも必須化されています。

※ なお、多面的・総合的な選抜が重視される方向性が示されるなかで、国立大学では学校推薦型選抜・総合型選抜が年々拡大しています。国立大学の団体である国立大学協会は、現在2割程度の学校推薦型選抜・総合型選抜の募集人員の割合を、最終的には3割まで拡大するという方向性を示しています。私立大学の入学者数の半数が推薦・AO入試で入学している現状と比較すると、まだまだ一般選抜中心の入試であることには変わりはありません。しかし、多面的・総合的な選抜へ転換していくなかで、徐々に学校推薦型選抜・総合型選抜の募集枠を拡大していく動きは今後も続きそうです。

### 3 私立大学入試のしくみ

#### (1) 一般選抜

国公立大学とは異なり、多様な選抜方法があります。

##### ① 共通テスト利用入試

共通テストの成績をもとに合否が決まる入試方式のこと。**私立大でも共通テスト利用入試を実施する大学が約8割となっており、私立大を志望する受験生にとっても関係の深い試験になっています。**私立大ごとの入試対策をせずに済むため、国公立大が第一志望で私立大を併願受験する人が、この方式を利用する人が多いようです。

ただし、共通テスト利用入試は、募集人員がかなり少なく、倍率が高くなる大学が多いので、合格の難易度も当然高くなることも念頭に置いておこう。

##### ② 柔軟性に富んだ選択科目等

複数科目の中から受験科目を選択させたり、教科によって配点に違いをもたせたりするなど、受験生が得意教科を活かして受験できます。学科試験以外に小論文や複数教科を融合した総合問題を出題する大学も増えています。また、実用英語検定などの取得級を点数化して試験の点数に加点できる大学もあります。

##### ③ 試験日自由選択制

「試験日自由選択制」とは、同一学部・学科の試験日を2～3日の範囲で設定し、受験生がその中から都合の良い日を自由に選ぶことができるという制度です。このため同じ学部・学科を2回以上受験できたり、複数の学科に出願できたりと、併願の幅が広がります。

#### (2) 総合型選抜

国公立大学の説明を参照して下さい。

#### (3) 学校推薦型選抜

国公立大学の項で説明したもの他に、指定校制推薦があります。

##### ・指定校制推薦

この推薦は応募できる受験生の出身校が予め指定されている制度をいいます。

指定は、その高校からの入学者数や入学後の成績など過去の実績に基づいて行われています。

指定校制推薦は、高校と大学との信頼関係によって成り立っていることを肝に銘じる必要があります。そして、併願はできないのでよく考慮した上で出願する必要があります。

## VI 大学受験・進学にかかる費用について (Kei-Net より)

### 意外とかかる受験費用

共通テストの受験料は1万8,000円（3教科以上受験の場合／2教科以下は1万2,000円）です。大学の受験料は、国公立大学の2次試験はほとんどの大学で1万7,000円、私立大学の一般方式は約3万5,000円となっています。たとえば、国公立大学2校（前・後期）と私立大学2校を受験すると、受験料だけで約12万円が必要となります。さらに遠方の大学を受験する場合には、交通費や宿泊費も必要になってきます。

このように受験費用は短期間に結構な出費となるのです。

### 大学入学後にかかる費用

入学決定後に大学へ支払う費用は、いくつかの種類に分かれています。入学時に支払う「入学金」、年間の「授業料」のほか、「施設設備費」「実験実習費」といった施設使用や実験・実習に伴う費用があります。このほか、「後援会費」「学会費」「保険料」などの名目で任意に徴収されるものもあります。

#### 国立大学標準額

	授業料	入学金	合計
昼間部	535,800円	282,000円	817,800円
夜間部	267,900円	141,000円	408,900円

※ 上記は文部科学省令で定める「標準額」

※ このほか大学により設備費・実習費・保険料等が必要な場合がある

#### 2023年度私立大学初年度学生納付金平均額

	授業料	入学料	施設設備費	実験実習費	その他	合計
文化系平均	827,135円	223,867円	143,838円	6,953円	73,955円	1,275,749円
理科系平均	1,162,738円	234,756円	132,956円	36,835円	41,290円	1,608,576円
医歯系平均	2,863,713円	1,077,425円	880,566円	183,496円	1,297,911円	6,285,110円
その他平均	977,635円	251,164円	231,743円	76,033円	96,716円	1,633,291円
全平均	959,205円	240,806円	165,271円	28,864円	83,194円	1,477,339円

文部科学省資料より

表をみても分かるように、大学入学後にかかる費用は、国公立大学と私立大学で大きな差があります。

国立大学では法人化後、文部科学省が定める「標準額」に沿って、決められた上限を超えない範囲で各大学が独自に入学金・授業料を決めることができるようになりました。2025年4月時点では、千葉大学、東京大学、東京科学大学、東京芸術大学、東京農工大学、一橋大学が教育体制の充実などの目的で標準額より高い授業料を設定しています。

公立大学の授業料も国立大学の「標準額」に沿った大学が多くなっています。特徴があるのは入学金で、大学が設置されている都道府県内（または市内）出身者は割安となるように設定されている大学がほとんどです。

なお、国公立大学の場合、入学金・授業料にほとんど差はありませんが、その他の「施設設備費」「実験実習費」などを含めた諸会費の徴収の有無については差があります。

私立大学の初年度納付金の平均額は150万円弱となっています。ただし、私立大学の場合は「神・仏教」学系の約120万円から「医」学系の約700万円まで、学部系統によって金額にかなり差があります。実験や実習が比較的少なく、施設・設備費がかからない文系学部は安く、医学部や芸術系学部など高額な設備が必要な学部系統ほど学費やその他諸費は高くなっています。

なお、学費の決定に際し、消費者物価指数に応じて額を変動させる「スライド制」を採っている大学も多く、こうした大学では、在学中に授業料が変動する可能性があります。

## 大学生生活にかかる費用

大学での生活費は、自宅から通える大学に行くか、親元から離れて大学生活を送るかによって大きく変わってきます。

### 1ヶ月の生活費

項目		自宅生	自宅外生
収入	仕送り・お小遣い	8,600円	97,400円
	奨学金	11,300円	11,500円
	アルバイト	41,900円	30,900円
	定職・その他	1,200円	900円
	収入合計	63,000円	140,700円
支出	食費・外食費	11,000円	30,100円
	住居費（家賃・水道光熱費）	900円	60,800円
	交通費	8,300円	5,100円
	娯楽費（嗜好品代・レジャー・交際費など）	12,800円	11,000円
	書籍費	1,900円	2,600円
	勉学費	800円	1,700円
	日常費（生活用品代・衣料品代など）	4,700円	7,200円
	通信費（携帯電話・インターネット通信費含む）	1,000円	3,000円
	その他（貯蓄・繰越を含む）	19,200円	14,900円
	支出合計	60,600円	136,400円

※ 2024年度Kei-Net特派員アンケートより

※ 金額は平均値で、10円単位で四捨五入

科目	考究現代文		単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学年	3	学科	普通科 理数科
使用教科書	精選論理国語（東京書籍） 文学国語（東京書籍）		副教材等		『大学入試に出た核心漢字 2500+語彙 1000』（尚文出版）、 その他各種問題集					
学習の目標	近代以降の様々な文章を讀み的確に理解するとともに適切に表現する能力を育む。また、文学的文章と論理的文章を結びつけて読み比べることで、ものの見方、感じ方、考え方を深め、国語力の向上を図り、人生を豊かにする態度を養う。									
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字力・語彙力の向上に努めること。</li> <li>・文章の読み方や問題への対処法について確実に身につけること。特に復習が重要である。</li> <li>・書いたり話したりして、表現しようとする姿勢が重要である。諦めてはいけない。</li> <li>・主体的・積極的に取り組む姿勢が重要である。受動的ではいけない。</li> </ul>									
月	単元名	指導目標	学習内容			備考（使用教材）			時数	
4 5 6	論理① 文学① 論理②	・的確に読解する力を付ける。 (全単元) ・自らの意見を効果的に表現する力を付ける。 (全単元)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の構成、展開、要旨を的確に捉える。(全単元)</li> <li>・細部の表現に注目し、どのようなことを言っているか(論理分野)、どのような心情が述べられているか(文学分野)を的確に捉える。</li> <li>・立場や論点を明確にして、意見を書く。(論理分野)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「言語と記号」(丸山圭三郎)</li> <li>・「檸檬」(梶井基次郎)</li> <li>・「環境問題と孤立した個人」(河野哲也)</li> </ul>			15	
第1回考査										1
6 7 8 9	文学② 論理③ 読み比べ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・的確に読解する力を付ける。(全単元)</li> <li>・筆者の見解を応用する力を付ける。(全単元)</li> <li>・文章を読み比べ、それぞれの主張を正確に読み取る力を付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の構成、展開、要旨を的確に捉える。(全単元)</li> <li>・細部の表現に注目し、どのようなことを言っているか(論理分野)、どのような心情が述べられているか(文学分野)を的確に捉える。</li> <li>・関連するテーマの評論の読み比べ、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈し、自分の考えをまとめる(読み比べ分野)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「葉桜と魔笛」(太宰治)</li> <li>・「おじいさんのランプ」(宇野常寛)</li> <li>・「書物の近代」(紅野謙介)</li> <li>・「読み書きする身体」(港千尋)</li> </ul>			16	
第2回考査										1
9 10 11	論理④ 文学③ 論理⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・的確に読解する力を付ける。(全単元)</li> <li>・文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、鑑賞する力を付ける。(小説分野)</li> <li>・統計資料をもとに考察する(論理分野)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の構成、展開、要旨を的確に捉える。(全単元)</li> <li>・筆者の見解を踏まえて具体的事象について分析する。(全単元)</li> <li>・文章を批評することを通して自分の考えを深め、発展させる。(論理分野)</li> <li>・小説について述べた評論を読み、小説という表現方法について考える。(文学分野)</li> <li>・記述問題演習に取り組む。(総合分野)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ロボットは意志を持つか」(野矢茂樹)</li> <li>・「演技する『私』」(安藤宏)</li> <li>・「地方都市を考える」(貞包英之)</li> </ul>			15	
第3回考査										1
12 1 2	総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題演習に取り組む国語の総合力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記述問題演習に取り組む。</li> <li>・共通テスト型の問題演習に取り組む。</li> </ul>			各種問題集			15	
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度				
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけようとしている。		論理的思考力や想像力、創造力を養い、社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。			言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉の持つ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。				
評価方法	定期考査、課題テスト、小テスト等を総合的に判断し評価。		定期考査、課題テスト、課題プリントや授業への取り組み等を総合的に判断し評価。			課題等の提出、課題プリントや授業への取り組み等を総合的に判断し評価。				

科目	考究古典		単位数	3	授業時間 [総時数]	55分 [96回]	学年	3	学科	普通科(学 際コース)	
使用教科書	高等学校 古典探究 古文編 高等学校 古典探究 漢文編	副教材等	新修古典文法(京都書房)、精説漢文(いいずな書店)、読んで見て覚える重要古文単語315(桐原書店)、その他自主教材、各種問題集								
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</li> <li>・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</li> <li>・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、日本の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</li> </ul>										
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法・句法力の向上に努めること。</li> <li>・単語・語彙力の向上に努めること。</li> <li>・主体的・積極的に取り組むこと。</li> <li>・多様な文章に触れ、読み慣れること。</li> <li>・探究的な学びを意識すること。</li> </ul>										
月	単元名	指導目標	学習内容			備考(使用教材)	時数				
4 5 6	[古文] 説話 日記 軍記 物語 [漢文] 諸家の 文章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典を読むための基礎知識を身につけ活用する力を付ける。(全単元)</li> <li>・日記文学や軍記物語を読む楽しさを感じる。(古文分野)</li> <li>・随想的な文章を読んでさまざまな見方、考え方に触れる。(漢文分野)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仏教説話に取り上げられた人物の論理と行動を読み解き、編者が語り伝えようとした価値について考察する(古文分野)</li> <li>・日記文学や軍記物語を読み、作者の境遇や出来事、心情を的確に捉え、作者のものの見方、感じ方、考え方を理解する。(古文分野)</li> <li>・和歌についての理解を深める。(古文分野)</li> <li>・文章の構成や展開を理解し、論旨を的確に捉えるとともに文章に表れた生き方・考え方について、意見や感想を述べ合う。(漢文分野)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「なげきつつひとり寝る夜」(蜻蛉日記)</li> <li>・「寂実、路頭の病者を憐れむ事」(発心集)</li> <li>・「夢よりもはかなき世の中」(和泉式部日記)</li> <li>・「忠度の都落ち」(平家物語)</li> <li>・「漁夫辞」(楚辞)</li> <li>・「五柳先生伝」(陶淵明集)</li> </ul>	23				
第1回考査							1				
6 7 8 9	[古文] 物語1 評論1 評論2 近世 の文章 [漢文] 逸話 漢詩	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典を読むための基礎知識を身につけ、活用する力を付ける。(全単元)</li> <li>・源氏物語を読む楽しさを実感する。</li> <li>・近世の評論を読み、作者の主張を的確に把握し、古人の見方や感じ方、考え方を理解する。(以上、古文分野)</li> <li>・賢者や知者にまつわる逸話を読み、登場人物の論の巧みさを読み取る。</li> <li>・古体詩を読み味わう。(以上、漢文分野)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面設定や自然描写に着目しながら登場人物の心情を捉え、源氏物語の世界を読み味わう。(古文分野)</li> <li>[活動] 源氏物語が影響を受けた作品、影響を与えた作品を挙げて、源氏物語の魅力について考える。</li> <li>・歌論を読み、論旨を的確に捉えるとともに、和歌に対する古人のものの見方や感じ方、考え方について、意見や感想を述べ合う。(古文分野)</li> <li>・登場人物の行動や心情を捉え、人間の生き方について考え、意見交流をする。(漢文分野)</li> <li>・古体詩を読み、情景や心情を味わう。(漢文分野)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「母と子の別れ」(源氏物語)</li> <li>・「葵の上の出産」(源氏物語)</li> <li>・「深草の里(無名抄)</li> <li>・「兼好法師が詞のあげつらひ」(玉勝間)</li> <li>・「浅茅が宿」(雨月物語)</li> <li>・「不顧後患」(説苑)</li> <li>・「不若人有其宝」(新序)</li> <li>・「行行重行行」(文選)</li> <li>・「責子」(陶潜)</li> <li>・「石壕吏」(杜甫)</li> </ul>	23				
第2回考査							1				
9 10 11	[古文] 物語2 [漢文] 諸家の 思想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人物を整理しながら、話の流れを理解する。(全単元)</li> <li>・源氏物語を読む楽しさを実感する。(古文分野)</li> <li>・諸子百家の文章を読んで、古代中国思想について理解を深める。(漢文分野)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面や人物の設定に着目しながら、登場人物の行動や心情を捉える。(古文分野)</li> <li>・文学史を理解した上で、文法、内容や表現の特色を理解する。(古文分野)</li> <li>・諸子百家の文章から、古代中国の時代背景や思想について考えるとともに、現代の状況や価値観と比較して、人間のあり方について考えを深める。(漢文分野)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「三舟の才」「菅原道真の左遷」(大鏡)</li> <li>・老子「小国寡民」(第八十章)</li> <li>・孟子「性善」(告子上)</li> <li>・韓非子「侵官之害」(二柄)</li> </ul>	23				
第3回考査							1				
12 1 2	総合②	総合②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題演習に取り組み国語の総合力を養う。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・記述問題演習に取り組む。</li> <li>・共通テスト型の問題演習に取り組む。</li> </ul>	23				
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度					

	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、わが国の伝統的な言語文化に対する理解を深めようとしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典を通じた先人の見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め自分の思考を広げたり深めたりしようとしている。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、古典に親しみ自己を向上させ、わが国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価方法	定期考査、課題テスト、小テスト、探究のレポート・発表等を総合的に判断し評価。	定期考査、課題テスト、課題プリントや授業への取り組み、探究の内容等を総合的に判断し評価。	課題等の提出、課題プリントや授業への取り組み等を総合的に判断し評価。

令和8年度シラバス【 発展現代文（文系選択） 】

長野県伊那北高等学校

科目	発展現代文 (普通科)	単 位 数	3	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学 年	3	学 科	普通科
使用教科書	なし	副教材等		各種問題集など					
学習の目標	近現代の様々な文章を読んだり、現代社会に関する様々な資料を比較・検討したりする活動を通じて、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な文章を主体的・協働的に読み、現代文に親しみ、考える。</li> <li>・様々な文章を読んだり、資料を読み比べたりして、課題を発見・解決し、他者が理解できるように発表する。</li> <li>・書いたり話したりして、表現しようとする姿勢が重要である。諦めてはいけない。</li> <li>・主体的・積極的に取り組む姿勢が重要である。受動的ではいけない。</li> </ul>								
月	単元名	指導目標	学習内容		備考（使用教材）			時数	
4	分かりやすく 説明しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・的確に読解する力を付ける。(全単元)</li> <li>・筆者の見解を応用する力を付ける。(全単元)</li> <li>・目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現を使う力を付ける。(全単元)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や図表を用いて、他者に明確かつ簡潔に情報を伝える方法について考察する(分かりやすく説明しよう)</li> <li>・様々な設定の場면을演じる活動から、言葉によらない身体表現の特徴と効果を理解する。(身体で表現しよう)</li> <li>・インタビューの方法を学び、適切な「問い」の設定の仕方について正しく理解する。(問いを考えよう)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイングを行う。</li> <li>・インタビューを行う。</li> </ul>			15	
5	身体で表現しよう								
6	「問い」を考えよう								
第1回考査									1
6	「自分」を表現しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・的確に読解する力を付ける。(全単元)</li> <li>・筆者の見解を応用する力を付ける。(全単元)</li> <li>・目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現を使う力を付ける。(全単元)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面接や自己PRなどの活動を通じて、自己表現の方法や工夫について考察する。(『自分』を表現しよう)</li> <li>・様々な文章を推敲したり、文章を要約したりする活動を通じて、論理的な文章の書き方について理解する。(論理的な文章を書こう)</li> <li>・ファシリテーションの目的を学び、議論による問題解決の方法を考察する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路活動などを想定した模擬面接を行う。</li> <li>・グループディスカッションを行う。</li> </ul>			15	
7	論理的な文章を書こう								
8	話し合う力をつけよう								
9									
第2回考査									1
9	情報活用力を身につけよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・的確に読解する力を付ける。(全単元)</li> <li>・筆者の見解を応用する力を付ける。(全単元)</li> <li>・目的や場面、相手、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館を利用して目的とする情報の収集を行うとともに、収集した情報をもとに広報資料を作成・発表する。(情報活用力を身につけよう)</li> <li>・自ら設定した課題について、プレゼンを行い、良い提案とは何かについて話し合</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スライドによるプレゼンテーションを行う。</li> </ul>			15	
10	説得力のある提案をしよう								
11	表現を楽しもう								

		手段に応じた適切な表現を使う力を付ける。(全単元)	う。(説得力のある提案をしよう) ・これまで学んできた表現の方法を踏まえて、様々なジャンルの作品を創作する。(表現を楽しもう)		
第3回考査					1
12 1 2 3	全範囲	・問題演習に取り組み、国語の総合力を養う。	・記述問題演習に取り組む。	各種問題集	16
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価規準		生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけようとしている。	論理的思考力や想像力、創造力を養い、社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉の持つ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。	
評価方法		定期考査(レポート)、発表内容等を総合的に判断し評価。	定期考査(レポート)、課題プリントや授業への取り組み等を総合的に判断し評価。	課題等の提出、課題プリントや授業への取り組み等を総合的に判断し評価。	

令和8年度シラバス【 発展古典（文系選択） 】

長野県伊那北高等学校

科目	発展古典 (普通科)	単位数	3	授業時間 [総時数]	55分 [96回]	学年	3	学科	普通科
使用教科書	なし	副教材等		新修古典文法（啓隆社）、精説漢文（いづな書店）、読んで見て覚える重要古文単語315（桐原書店）、その他各種問題集					
学習の目標	古典としての古文と漢文、古典に関連する文章を読むことによって、我が国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な古典、古典に関連する文章を主体的・協働的に読み、古典に親しみ、考える。</li> <li>・様々な古典、古典に関連する文章を読んだり、読み比べたりして、課題を発見・解決し、他者が理解できるように発表する。</li> <li>・書いたり話したりして、表現しようとする姿勢が重要である。諦めてはいけない。</li> <li>・主体的・積極的に取り組む姿勢が重要である。受動的ではない。</li> </ul>								
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数		
4 5 6	[古文] 物語 [漢文] 故事と寓話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な物語作品を読み、登場人物の心情や行動について考える。(古文分野)</li> <li>・古代中国の思想を通して、人間の生き方やあり方についての施策を深める。(漢文分野)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典などに表れた思想や感情を読みとり、人間、社会、自然などについて考察する。(全単元)</li> <li>・古典特有の表現を味わったり、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解したりすること。(全単元)</li> <li>・故事成語について調べて発表する。(漢文分野)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・狩りの使ひ(伊勢物語)</li> <li>・安積山(大和物語)</li> <li>・「孟母断機」(列女伝)</li> <li>・「夢為胡蝶」(荘子)</li> </ul>	23		
第1回考査									1
6 7 8 9	[古文] 歴史 [漢文] 孔子と子路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史上の人物、出来事がどのように語られているかを読み取る。(古文分野)</li> <li>・歴史書に書かれた人物の生き方・考え方を通して、人間の生き方やあり方についての思索を深める。(漢文分野)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典などに表れた思想や感情を読みとり、人間、社会、自然などについて考察する。(全単元)</li> <li>・古典特有の表現を味わったり、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解したりする。(全単元)</li> <li>・図書館を利用して古典などを読み比べ、そこに描かれた人物、情景、心情などについて、感じたことや考えたことを発表する。(古文分野)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・隆家と道長(大鏡)</li> <li>・伊周・隆家の配流(栄華物語)</li> <li>・「子路請為弟子」、「嗟乎、由死矣」(史記)</li> <li>・「弟子」(中島敦)</li> <li>・『論語』における子路</li> </ul>	24		
第2回考査									1
9 10 11	[古文] 評論・随筆 [漢文] 漢の高祖と韓信・張良	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古人のものの見方、感じ方、考え方を読み取り、人間の生き方やあり方について考察する。(古文分野)</li> <li>・歴史書に書かれた人物の生き方・考え方を</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典などに表れた思想や感情を読みとり、人間、社会、自然などについて考察する。(全単元)</li> <li>・古典特有の表現を味わったり、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解したりする。(全単元)</li> <li>・日常の言語生活の中から我が国の伝統と</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・秘する花を知ること(風姿花伝)</li> <li>・稽古も歌口も同じほどの人(ささめごと)</li> <li>・「国士無双」、「良薬苦口」(史記)</li> </ul>	23		

		通して、人間の生き方やあり方についての思索を深める。(漢文分野)	文化に関連する表現を集め、その意味や特色、由来などについて調べたことを発表する。(漢文分野)		
第3回考査					1
12 1 2 3	総合	・問題演習に取り組み 古典の総合力を養う。	・記述問題演習に取り組み。	各種問題集	2 3
評価規準		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		生涯にわたる社会生活に必要な 国語の知識や技能を身につけるとともに、わが国の伝統的な言語文化に対する理解を深めようとしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、 古典を通した先人の見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め自分の思考を広げたり深めたりしようとしている。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、古典に親しみ自己を向上させ、わが国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	
評価方法		定期考査(レポート)、発表内容等を総合的に判断し評価。	定期考査(レポート)、課題プリントや授業への取り組み等を総合的に判断し評価。	定期考査(レポート)、課題プリントや授業への取り組み等を総合的に判断し評価。	

令和8年度シラバス【 日本史探求 】

長野県伊那北高等学校

科目	日本史探求	単位数	3	授業時間 [総時数]	55分 [96回]	学年	3	学科	普通科	
使用教科書	詳説日本史 日本史探究 (山川出版社)	副教材等	新詳日本史(浜島書店) 史料日本史(とうほう) 新日本史要点ノート[応用編](啓隆社) 日本史用語集(山川出版社) ウィニングコンパス(とうほう)							
学習の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。									
具体的な取り組み・指導上の注意点	二年次の学習の続きから授業を始める。受験のみならず、歴史を理解するためには、単に知識をつけるのではなく、知識を基に、各時代の歴史観を構築することが必要。各時代の史料を読み、内容を読み取ることはもちろん、その資料の出された要因・背景などを理解し、因果関係や人物の関係性などを考察し、各時代の様子を理解し、推測できるようになることも重要である。 ※要点ノートについては予習をしていくこと。									
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数			
4 5 6	第10章 幕藩体制の動揺 第11章 近世から近代へ 第12章 近代国家の成立	近世幕藩体制の安定期から、三大改革を経て内憂外患に至る様子を、文化を踏まえて理解する。 幕末期の混乱から新政府の樹立、明治維新について理解する。	1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化	1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府の発足	1 明治維新と富国強兵	教科書や資料集・史料の内容を参照しつつ、グループディスカッションなども交えて展開させたい。	31			
第1回考査								1		
6 7 8 9	第12章 近代国家の成立 第13章 近代国家の展開 第14章 近代国家の展開 第15章 恐慌と第2次世界大戦	明治政府主導による立憲国家の樹立と、日本の国際的地位の確立までを理解させる。 20世紀以降の日本の国際的な立ち位置や、国内の状況を経済・文化も含め学習させる。	1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立	1 日清・日露戦争と国際関係 2 第一次世界大戦と日本 3 ワシントン体制	1 近代産業の発展 2 近代文化の発達 3 市民生活の変容と大衆文化	1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次世界大戦	教科書や資料集・史料の内容を参照しつつ、グループディスカッションなども交えて展開させたい。	31		
第2回考査								1		

9	第16章 占領下の日本	戦後日本の歩みを学習する。	1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和	教科書や資料集・史料の内容を参照しつつ、グループディスカッションなども交えて展開させたい。  教科書終了後、テーマ史など復習予定。	31
10	第17章 高度成長の時代	占領期から高度経済成長、さらに経済大国となるまでの流れを理解する。	1 55年体制 2 経済復興から高度成長へ		
11	第18章 激動する世界と日本		1 経済大国への道 2 冷戦の終結と日本社会の変容		
第3回考査					1
12	演習	共通テスト対策に向け問題演習を積み重ねる。		特編での授業	
1					
2					
評価規準		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	
評価方法		小テスト 定期考査	定期考査	発言・質問 定期考査	

### ○学習のポイント

とにかく教科書を読み込むことが大切です。教科書ベースの学習を心がけて下さい。大学進学を目指す人がほとんどだと思います。様々な大学がありますが、ほとんどの大学、もちろん共通テストも、教科書ベースで日本史を理解すれば、勝負できます。

授業は、歴史の流れを重視した展開となる。歴史を大枠で捉え、時代観・歴史観を養えるように進めていきます。各時代の出来事、事件、政策、争い、文化、生活などは「なぜ起こったのか？その結果どうなったのか？」という視点で、授業に参加し、教科書を読んでほしい。時代の流れという「幹」＝「土台」を作り、そこにたくさんの「枝」＝「知識」をつけていくイメージを持ってください。共通テストなどでは、歴史の流れを掴み、知識を身につけた上で、それらを用いて、歴史を推察する力を試す問題が増えています。そのための復習問題、グループワーク、論述問題・過去問へのチャレンジも授業内で行っていきます。

また過去の先輩たちで、日本史の力を伸ばした人は、とにかく質問をしてください。進度は早めになります。わからないところや、疑問があれば、社会科研究室に足を運んでください。

令和8年度シラバス【 倫理 】

長野県伊那北高等学校

科目	倫理	単位数	3	授業時間 [総時数]	55分 [96回]	学年	3	学科	普通科						
使用教科書	倫理 (東京書籍)	副教材等	『テオリア 最新倫理資料集』(第一学習社) 『倫理用語集』(山川出版社) 『要点マスター 倫理 整理と演習』(東京書籍)												
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を通じて、さまざまな哲学者や思想家、宗教家の思索を深く理解し、現代社会における諸問題に対して、それらを踏まえながら批判し、反省することのできる「愛知者」となる。</li> <li>・学習を通じて、大学共通テストを中心とした入試に対応する実践力を身につける。</li> </ul>														
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業においては、図や絵を用いながら、第一に思想家とその人物が唱えた思想の内容の対応関係(「誰が何を言ったか」を、第二に思想家同士の影響関係(「Aの思想とBの思想はどこがどう違うのか」「思想家Cの影響を受けた思想家は誰か」)を整理することを重視する。</li> <li>・抽象的な哲学用語をただ理解し、記憶することだけではなくて、自身の人生観、人間観、世界観を問いなおす「本質的な問い」に思いをよせ、その答えを他者と共有する機会を設ける。</li> <li>・大学共通テストで高得点を取ることをめざし、この倫理の授業内容はもちろん、公共の復習も適度に行ない、また、問題演習の時間を多く確保する。</li> </ul>														
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数								
4 5 6	I ・ II さまざまな人生観・倫理観・世界観	・右の学習内容を理解する。	● 源流思想	・ 古代ギリシア思想	・ 西アジアの一神教	・ 古代インド思想	・ 古代中国思想	● 西洋近代思想	・ ルネサンス・宗教改革・科学革命	・ イギリス経験論・大陸合理論	左はあくまで予定であり、時折の社会状況に応じて変更することもある。	23			
第1回考査															
6 7 8 9	さまざまな人生観・倫理観・世界観II	・右の学習内容を理解する。	● 西洋近代思想	・ 社会契約説・啓蒙思想	・ ドイツ観念論	・ 功利主義	・ 社会主義	・ 進化論・プラグマティズム	・ 実存主義・現象学	・ 精神分析学	・ 構造主義・ポスト構造主義	・ フランクフルト学派	・ 分析哲学・科学哲学・政治哲学	左はあくまで予定であり、時折の社会状況に応じて変更することもある。	24

	国際社会に生きる日本人としての自覚		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本思想</li> <li>・ 古代日本思想</li> <li>・ 中世日本思想</li> <li>・ 近世日本思想</li> <li>・ 近代日本思想</li> <li>・ 現代日本思想</li> </ul>		
第2回考査					1
9 10 11	現代の諸課題と倫理・人間の心のあり方	・ 右の学習内容を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現代の諸課題と倫理</li> <li>・ 生命倫理</li> <li>・ 環境倫理</li> <li>・ 科学技術と倫理</li> <li>・ 家族や地域社会と倫理</li> <li>・ グローバル社会と倫理</li> <li>● 心理学</li> <li>・ 認知</li> <li>・ 感情</li> <li>・ パーソナリティ</li> <li>・ 発達</li> <li>● 「人間とはなにか」</li> </ul>	左はあくまで予定であり、時折の社会状況に応じて変更することもありうる。	23
第3回考査					1
12 1 2	演習	・ 入試に向けた実践力を身につける。	● 共通テストに向けた演習	左はあくまで予定であり、時折の社会状況に応じて変更することもありうる。	23
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	科目「倫理」で取り扱われる全内容を理解しているか。共通テストにみられるような正誤判定、資料読解の問題が解けるようになっているか。	「本質的な問い」に対して自分なりの見解をもっているか。それをわかりやすく論述できているか。	真摯に授業に参加しているか。定期考査にむけて学習を自主的に行なえているか。		
評価方法	定期考査における知識の定着度を問う問題の正答率などを参考に、総合的に判断する。	定期考査における思考力や表現力を問う問題の正答率やレポート等の提出物などを参考に、総合的に判断する。	定期考査の点数や提出物、授業におけるグループワークの取り組みなどを参考に、総合的に判断する。		

○ 学習のポイント

- ・ 長期的な目標として、自身が「愛知者」となり、さまざまなものの見方を得、価値観の異なる他者に寛容になることをめざし、短期的な目標として、共通テストなどの入試で高得点をとることをめざしてほしい。
- ・ 長期的な目標に到達するために、授業中紹介した書籍や教科書・資料集にのっている原典を手にとって、思想家のことばにふれてみてほしい。
- ・ 短期的な目標に到達するために、考査の問題や購入した問題集をくり返し説き、丹念に復習をしてほしい。

令和8年度シラバス【政治・経済】(文系)

長野県伊那北高等学校

科目	政治・経済		単位数	3	授業時間 [総時数]	55分 [96回]	学年	3	学科	普通科	
使用教科書	政治・経済 (東京書籍)		副教材等		最新図説 政経 (浜島書店) 要点マスター政治・経済 整理と演習 (東京書籍)						
学習の目標	社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、政治経済活動に関わる諸課題に関して、現実社会の諸事象を通して理解を深めるとともに、国内外の政治経済に関する諸資料から必要な情報を適切に読み取り、課題の解決に向けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。										
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	「公共」の学習との接続を意識しながら、教科書内容の確実な定着と理解を図る。その上で、現代社会の諸課題に関する資料を適切に読み取り、定着した知識を活用して考察する機会を設ける。また、取り上げた課題の解決に向けて、「公共」での既習内容を活用し、政治と経済とを関連させた多面的・多角的な考察を行うことを意識する。										
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数				
4 5 6	1.経済と企業 2.市場 3.国民所得と 経済成長 4.金融・財政	経済に関する基本的な事柄を理解するとともに、財政や金融の働きと仕組み等について、現実社会の諸事象を通して考察する。	個人や企業の経済活動における役割と責任について考察する(1)市場機構の機能と限界を理解し、市場の問題点を考察する(2)経済成長と景気変動の関連について考察する(3)金融と財政の役割について理解を深め、日本の経済政策の方向性を考察する(4)			単元の原理・原則を通して、現実社会の諸事象を説明できる。	23				
第1回考査											1
7 8 9	5.戦後経済 6.福祉社会と 日本経済 7.国際経済	日本経済の成り立ちを概観し、経済活動と福祉の関連や国際経済の特質等について多面的・多角的に考察する。	日本経済の現状の成り立ちについて理解を深める(5)公害、消費者、農業、中小企業、情報、労働、社会保障についての課題とその解決策を考察する(6)国際経済に関する基本的な事柄を理解する(7)			単元の原理・原則を通して、現実社会の諸事象を説明できる。	23				
第2回考査											1
9 10 11	8.国内政治	国民主権を担う公民として、望ましい政治や政治参加の在り方について考察する。	よりよい民主政治の実現、日本国憲法の役割、日本の政治機構、主権者による政治参加について、現実社会の諸事象を通して理解を深める(8)			単元の原理・原則を通して、現実社会の諸事象を説明できる。	23				
第3回考査											1
12 1 2	9.国際政治	国際社会において、より積極的な役割を果たそうとする自覚を深める。	国際社会における利害調整と紛争解決の方法を理解し、平和主義を掲げる日本独自の役割の在り方と国際平和の実現のための方法を考察する。			単元の原理・原則を通して、現実社会の諸事象を説明できる。	23				
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度					
	社会的な事象、特に政治経済的な事象に関わる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けることができる。		社会的な事象、特に政治経済的な事象に関わる諸課題に対して、多面的・多角的に考察し、社会の変化や多様な立場を踏まえた判断や表現をすることができる。			社会的な事象に対する関心を高め、意欲的に現代社会の諸課題について追究するとともに、他者との関わりの中でより良い解決を模索することができる。					
評価方法	3回の考査などで基礎的・応用的な問題を課し、知識・技能の定着を見定める。		授業内での考察への取り組みや、その内容から判断する。			グループ学習、質疑応答、事後の質問などで主体的に取り組む態度から判断する。					

令和8年度シラバス【政治・経済】(理系)

長野県伊那北高等学校

科目	政治・経済		単位数	4	授業時間 [総時数]	55分 [128回]	学年	3	学科	普通科 理数科	
使用教科書	政治・経済 (東京書籍)		副教材等		最新図説 政経 (浜島書店) 要点マスター政治・経済 整理と演習 (東京書籍)						
学習の目標	社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、政治経済活動に関わる諸課題に関して、現実社会の諸事象を通して理解を深めるとともに、国内外の政治経済に関する諸資料から必要な情報を適切に読み取り、課題の解決に向けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。										
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	「公共」の学習との接続を意識しながら、教科書内容の確実な定着と理解を図る。その上で、現代社会の諸課題に関する資料を適切に読み取り、定着した知識を活用して考察する機会を設ける。また、取り上げた課題の解決に向けて、「公共」での既習内容を活用し、政治と経済とを関連させた多面的・多角的な考察を行うことを意識する。										
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数				
4 5 6 7	1.経済と企業 2.市場 3.国民所得と 経済成長 4.金融・財政	経済に関する基本的な事柄を理解するとともに、財政や金融の働きと仕組み等について、現実社会の諸事象を通して考察する。	個人や企業の経済活動における役割と責任について考察する(1)市場機構の機能と限界を理解し、市場の問題点を考察する(2)経済成長と景気変動の関連について考察する(3)金融と財政の役割について理解を深め、日本の経済政策の方向性を考察する(4)			単元の原理・原則を通して、現実社会の諸事象を説明できる。	31				
第1回考査											1
7 8 9 10	5.戦後経済 6.福祉社会と 日本経済 7.国際経済	日本経済の成り立ちを概観し、経済活動と福祉の関連や国際経済の特質等について多面的・多角的に考察する。	日本経済の現状の成り立ちについて理解を深める(5)公害、消費者、農業、中小企業、情報、労働、社会保障についての課題とその解決策を考察する(6)国際経済に関する基本的な事柄を理解する(7)			単元の原理・原則を通して、現実社会の諸事象を説明できる。	31				
第2回考査											1
10 11 12	8.国内政治	国民主権を担う公民として、望ましい政治や政治参加の在り方について考察する。	よりよい民主政治の実現、日本国憲法の役割、日本の政治機構、主権者による政治参加について、現実社会の諸事象を通して理解を深める(8)			単元の原理・原則を通して、現実社会の諸事象を説明できる。	31				
第3回考査											1
12 1 2	9.国際政治	国際社会において、より積極的な役割を果たそうとする自覚を深める。	国際社会における利害調整と紛争解決の方法を理解し、平和主義を掲げる日本独自の役割の在り方と国際平和の実現のための方法を考察する。			単元の原理・原則を通して、現実社会の諸事象を説明できる。	31				
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度					
	社会的事象、特に政治経済的な事象に関わる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けることができる。		社会的事象、特に政治経済的事象に関わる諸課題に対して、多面的・多角的に考察し、社会の変化や多様な立場を踏まえた判断や表現をすることができる。			社会的事象に対する関心を高め、意欲的に現代社会の諸課題について追究するとともに、他者との関わりの中でより良い解決を模索することができる。					
評価方法	3回の考査などで基礎的・応用的な問題を課し、知識・技能の定着を見定める。		授業内での考察への取り組みや、その内容から判断する。			グループ学習、質疑応答、事後の質問などで主体的に取り組む態度から判断する。					

令和8年度シラバス【世界史探究】

長野県伊那北高等学校

科目	世界史探究	単位数	3	授業時間 [総時数]	55分 [96回]	学年	3	学科	普通科
使用教科書	詳説世界史 世界史探究 (山川出版社)	副教材等	グローバルワイド 最新世界史図表(第一学習社) 新世界史要点ノート [応用編](啓隆社) 世界史用語集(山川出版社) ウィニングコンパス(とうほう)						
学習の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。								
具体的な取り組み・ 指導上の注意点	二年次の学習の続きから授業を始める。受験のみならず、歴史を理解するためには、単に知識をつけるのではなく、知識を基に、各時代の歴史観を構築することが必要。各時代の史料を読み、内容を読み取ることはもちろん、その資料の出された要因・背景などを理解し、因果関係や人物の関係性などを考察し、各時代の様子を理解し、推測できるようになることも重要である。								
月	単元名	指導目標	学習内容		備考	時数			
4	第9章続き 第10章 アジア諸帝国の 繁栄	各地域の歴史的展開を 追い、基本的な知識を 身に着けつつ、各地域 の結びつきについて理 解を深める。	2 ヨーロッパの海洋進出 1 オスマン帝国とサファビー朝 2 ムガル帝国の興隆 3 清代の中国と隣接諸地域		教科書や資料集・ 史料の内容を参照 しつつ、グループ ディスカッション なども交えて展開 させたい。	31			
5	第11章 近世ヨーロッパ 世界の動向		1 ルネサンス 2 宗教改革 3 主権国家体制の成立 4 蘭・英・仏の台頭 5 北欧・東欧の動向 6 科学革命と啓蒙思想						
第1回考査						1			
6	第12章 産業革命と環大 西洋革命		1 産業革命 2 アメリカ合衆国の独立と発展 3 フランス革命とナポレオン の支配 4 中南米諸国の独立			31			
7	第13章 イギリスの優位 と欧米国民国家 の成立		1 ウィーン体制とヨーロッパの政 治・社会の変動 2 列強体制の動揺とヨーロッパの 再編成						
8			3 アメリカ合衆国の発展 4 19世紀欧米文化の展開と市民文 化の繁栄						
9	第14章 アジア諸地域の		1 西アジア地域の変容 2 南アジア・東南アジアの植民地						

	動揺 第15章 帝国主義とアジアの民族運動		化 3 東アジアの激動 1 第2次産業革命と帝国主義 2 列強の世界分割と列強体制の二分化 3 アジア諸国の変革と民族運動		
第2回考査					1
9	第16章 第一次世界大戦と世界の変容 第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成		1 第一次世界大戦とロシア革命 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3 アジア・アフリカの民族運動		31
10	第18章 冷戦と第三世界の台頭 第19章 冷戦の終結と今日の世界		1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊 2 第二次世界大戦 3 新しい国際秩序の形成		
11			1 冷戦の展開 2 第三世界の台頭とキューバ危機 3 冷戦体制の動揺		
			1 産業構造の変容 2 冷戦の終結 3 今日の世界 4 現代文明の諸相		
第3回考査					1
12	演習	共通テスト対策に向け問題演習を積み重ねる。		特編での授業	
1					
2					
評価方法		小テスト 定期考査	定期考査	発言・質問 定期考査	

### ○学習のポイント

基本的には、教科書をベースに学習を進めてください。共通テスト・国公立2次・私立2次問わず、ほとんどの試験は教科書ベースで世界史を理解すれば、十分に勝負できます。

授業は、各地域の通史的な流れを重視して進めていきます。細かい知識・用語の暗記から入るのではなく、大きな歴史の流れ・イメージを持った状態で一問一答やワークに取り組めると良いでしょう。各出来事や文化などには必ず原因があります。原因・展開・影響の各部分に着目して教科書を読んでいきましょう。

2学年の頃より少し進度を速めて授業を行っていきますので、予習・復習を行った上で授業に参加できるようにしましょう。質問、過去問の添削など、いつでも受け付けます。歴史科目は勉強した分だけ点数になりやすい科目です。コツコツ積み重ねていきましょう。

令和8年度シラバス【 地理探究 】

長野県伊那北高等学校

科目	地理探究		単位数	3	授業時間 [総時数]	55分 [ 96回]	学年	3	学科	普通科 理数科
使用教科書	新詳地理探究, 帝国書院 詳解現代地図最新版, 二宮書店		副教材等		新編地誌資料, 白地図ワーク&読図演習, とうほう データブックオブザワールド 2025, 二宮書店					
学習の目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に考察し, 各地域の特性や歴史的背景を地誌的に捉え, 地理的な見方・考え方を養う。また, 国際社会を主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者として必要な資質・能力を養う。									
具体的な取り組み・指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理学の概念や原理・法則、現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に探究する。</li> <li>・地球的な課題を見いだし、系統地理的な考察からその過程や結果を適切に文章や地図・図表に表現する。</li> <li>・定期考査を行い、それまでの学習の取り組みや理解度の自己評価を行う。</li> </ul>									
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数			
4 5 6	人口、集落、衣食住、言語・宗教、人種・民族、紛争、国家	経済の発展を支える諸活動について理解し、世界の動向について理解するとともに世界中に暮らす人々の生活様式や文化、それに基づく紛争や国家の在り方など考察し、理解を深める。	自然増加・社会増加、村落・都市、都市問題、再開発、衣食住、言語・宗教、多言語国家、人種差別、民族紛争、領土問題			人口減少問題と多様化するライフスタイルの関係を考察知ることや人種差別、宗教迫害の歴史から人類の多様性を認め共存する未来について考える。	23			
第1回考査							1			
7 8 9	現代世界の諸地域	現代世界の諸地域の自然環境、産業、歴史、文化、経済社会の課題などを項目ごとや各地域の特色に合わせて整理し、地誌的特色について考察を深める。	中国、韓国、ASEAN 諸国、インド、西アジアと中央アジア、北アフリカとサハラ以南アフリカ、EU 諸国、ロシア、アメリカ合衆国、ラテンアメリカ、オーストラリアとニュージーランド			地誌的な考察方法を学ぶとともに現代世界の諸地域において各地域の特色ごとに整理し、国際社会を空間的に把握・考察する力を養う。	23			
第2回考査							1			
9 10 11	地形 気候 環境問題	太陽からの熱エネルギーによる外的営力やテクトニクスによる内的営力、大気の大循環などの地球システムを学び、地球環境と人間のかかわりについて考察する総合的学力を養う。	形とテクトニクス、山地地形、平野地形、海岸地形、その他さまざまな作用により形成される地形、大気の大循環、気候要素と気候因子、ケッペンの気候区分、世界の気候区、日本の気候区、湖沼と地表水・地下水、海流、気候変動と異常気象、災害と防災、地球環境問題			地形図の読解やGISを利用し、各種地形や気候について理解を深めるための演習を行うことを通して、自然環境と人々の生活がどのように関わりあうか、考察する。	23			
第3回考査							1			
12 1 2 3	演習	総合的な地理の学力を定着させる。	系統地理と地誌の問題演習			現代社会における諸問題を多面的・多角的に考察し、系統地理分野・地誌分野を横断的に捉える力を養う。	23			

第4回考査			1
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	自然環境, 産業, 地球的な諸課題など様々な地理的事象について知識・理解を深め, 人間生活との相関について説明できる技能が身についている。	人間生活との関わりを地図や資料を通して多面的, 多角的に考察し, 諸課題を適切にまとめ, 表現できる。。	地理的な諸現象について資料を基に考察でき, 関心をもって国際社会を主体的に生きようとする自覚や社会の形成者として必要な能力を身につけようとする態度が身についている。
評価方法	4回の考査などで基礎的・応用的な問題を課し, 知識・技能の定着と発展性を見定める。	定期考査時に記述問題を課し, 思考・判断・表現の定着と発展性を評価する。	グループ学習, 質疑応答, 事後の質問などで主体的に取り組む態度を評価する。

○ 学習のポイント

暗記だけでなくなぜその現象が起こるのかを考察する姿勢で科目に臨むこと。地理を学ぶことは俯瞰的な視点かつ多角的に物事をとらえ考察する力が身につくことが大切であり、様々な事柄に興味・関心を持ち、日常生活の中の疑問を大切にしていきたい。教科書・地図帳・資料集・統計資料などを活用することを厭わない姿勢を持ち、問題演習に取り組むこと。

令和8年度シラバス【 地理探究 】

長野県伊那北高等学校

科目	地理探究		単位数	4	授業時間 [総時数]	55分 [ 128回]	学年	3	学科	普通科 理数科
使用教科書	新詳地理探究, 帝国書院 詳解現代地図最新版, 二宮書店		副教材等		新編地誌資料, 白地図ワーク&読図演習, とうほう データブックオブザワールド 2026, 二宮書店					
学習の目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に考察し, 各地域の特性や歴史的背景を地誌的に捉え, 地理的な見方・考え方を養う。また, 国際社会を主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者として必要な資質・能力を養う。									
具体的な取り組み・指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理学の概念や原理・法則、現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め, 意欲的に探究する。</li> <li>・地球的な課題を見いだし, 系統地理的な考察からその過程や結果を適切に文章や地図・図表に表現する。</li> <li>・定期考査を行い, それまでの学習の取り組みや理解度の自己評価を行う。</li> </ul>									
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数			
4 5 6	農業 鉱産資源	自然・社会条件に基づき農業地域を理解し、農業の問題について学びを深める。今後の資源・エネルギー問題を主体的に学ぶ。	農牧業, 自給的農牧業, モンスーンアジアの農業, 商業的農牧業, 企業的農牧業, プランテーション農業, 食糧問題, 林業, 水産業, 日本の農林水産業 エネルギー資源, 電力, 鉱産資源, 資源・エネルギー問題			食料不足など地球的課題について探究的な学習も交える。統計資料を把握して地域や産物の特色や課題を読み取る。	31			
第1回考査										1
7 8 9	商業、交通 通信、貿易、人口、集落、衣食住、言語・宗教、人種・民族	経済の発展を支える諸活動について理解し、世界の動向について理解するとともに世界中に暮らす人々の生活の様子や文化について考察し、理解を深める。	産業構造の変遷、交通の発達、日米貿易、自由貿易・保護貿易、WTO・EPA、自然増加・社会増加、村落・都市、都市問題、再開発、衣食住、言語・宗教、多言語国家、人種差別、民族紛争、領土問題			人口減少問題と多様化するライフスタイルの関係を考察知ることや人種差別、宗教迫害の歴史から人類の多様性を認め共存する未来について考える。	31			
第2回考査										1
9 10 11	現代世界の諸地域	現代世界の諸地域の自然環境、産業、歴史、文化、経済社会の課題などを項目ごとや各地域の特色に合わせて整理し、地誌的特色について考察を深める。	中国、韓国、ASEAN諸国、インド、西アジアと中央アジア、北アフリカとサハラ以南アフリカ、EU諸国、ロシア、アメリカ合衆国、ラテンアメリカ、オーストラリアとニュージーランド			地誌的な考察方法を学ぶとともに現代世界の諸地域において各地域の特色ごとに整理し、国際社会を空間的に把握・考察する力を養う。	31			
第3回考査										1
12 1 2 3	地形 気候 環境問題、演習	太陽からの熱エネルギーによる外的営力やテクトニクスによる内的営力、大気の大循環などの地球システムを学び、地球環境と人間のかかわりについて考察する総合的学力を養う。	地形とテクトニクス, 山地地形, 平野地形, 海岸地形, その他さまざまな作用により形成される地形、大気の大循環, 気候要素と気候因子, ケッペンの気候区分, 世界の気候区, 日本の気候区, 湖沼と地表水・地下水, 海流, 気候変動と異常気象, 災害と防災, 地球環境問題			地形図の読解やGISを利用し, 各種地形や気候について理解を深めるための演習を行うことを通して, 自然環境と人々の生活がどのように関わりあうか, 考察する。	31			

第4回考査			1
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	自然環境, 産業, 地球的な諸課題など様々な地理的事象について知識・理解を深め, 人間生活との相関について説明できる技能が身についている。	人間生活との関わりを地図や資料を通して多面的, 多角的に考察し, 諸課題を適切にまとめ, 表現できる。	地理的な諸現象を資料を基に考察でき, 関心をもって国際社会を主体的に生きようとする自覚や社会の形成者として必要な能力を身につけようとする態度が身についている。
評価方法	4回の考査などで基礎的・応用的な問題を課し, 知識・技能の定着と発展性を見定める。	定期考査時に記述問題を課し, 思考・判断・表現の定着と発展性を評価する。	グループ学習, 質疑応答, 事後の質問などで主体的に取り組む態度を評価する。

○ 学習のポイント

暗記だけでなくなぜその現象が起こるのかを考察する姿勢で科目に臨むこと。地理を学ぶことは俯瞰的な視点かつ多角的に物事をとらえ考察する力が身につくことが大切であり、様々な事柄に興味・関心を持ち、日常生活の中の疑問を大切にしていきたい。教科書・地図帳・資料集・統計資料などを活用することを厭わない姿勢を持ち、問題演習に取り組むこと。

令和8年度シラバス【数学Ⅲ】(理1)

長野県伊那北高等学校

科目	数学Ⅲ		単位数	3	授業時間 [総時数]	55分 [96回]	学年	3	学科	普通科
使用教科書	高等学校数学Ⅲ (数研出版)		副教材等		新課程クリアー数学Ⅲ+C 新課程クリアー数学演習Ⅲ・C 新課程チャート式 基礎からの数学Ⅲ+C					
学習の目標	関数、極限、及び微分法・積分法について理解を深め、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学の良さを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。									
具体的な取り組み・指導上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査、ウィークリーテストなどを行う。</li> <li>・定期考査、ウィークリーテストを利用して、学習の自己評価を行い各単元の理解を深める。</li> <li>・課題を出して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。</li> </ul>									
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数			
4	第1章	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく。	第1章 関数			数学C終了 数学Ⅲ	4			
5	第2章		第2章 極限				16			
6	第3章		第3章 微分法				14			
第1回考査							1			
6	第4章	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく。	第4章 微分法の応用				15			
7	第5章		第5章 積分法とその応用				24			
8										
9										
第2回考査							1			
9	演習1	演習を通して、解法の理解を深める。	数学ⅢCの復習			数学Ⅲ終了 数学C↓	21			
10										
11										
第3回考査										
12	演習2	数ⅠAⅡBの復習	問題演習(共通テスト対応)			特編授業Ⅰ 特編授業Ⅱ				
1	演習3	数学全範囲の演習	問題演習(記述試験対応)							
2										
3										
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度				
	関数、極限及び微分法積分法における基本的な概念、原理、法則などを体系的に理解し基礎的な知識を身に付け、数学的に処理する仕方や推論方法などの技能を身に付けている。		当該分野において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方、考え方や表現の仕方を身に付けている。			当該分野における考え方に興味を持つと共に、数学のよさを認識し、事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいた探究をしようとする。				
評価方法	定期考査 ウィークリーテスト(小テスト)		定期考査 ウィークリーテスト 課題レポート			提出物 課題レポート				

令和8年度シラバス【数学C】(理1)

長野県伊那北高等学校

科目	数学C		単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学年	3	学科	普通科
使用教科書	高等学校数学C (数研出版)		副教材等		新課程クリアー数学III+C 新課程クリアー数学演習III・C 新課程チャート式 基礎からの数学III+C					
学習の目標	ベクトル、複素数平面及び式と曲線について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学の良さを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。									
具体的な取り組み・指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査、小テストなどを行う。</li> <li>・定期考査、小テストを利用して、学習の自己評価を行い各単元の理解を深める。</li> <li>・課題を出して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。</li> </ul>									
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数			
4 5 6	4章	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく。	4章2節媒介変数表示と極座標			数学III↓	6			
第1回考査										
6 7 8 9		それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく。				数学III↓				
第2回考査										
9 10 11	演習1	演習を通して、解法の理解を深める。	数学III Cの復習			数学III終了 数C↓	19			
第3回考査										
12 1 2 3	演習2 演習3	数I A II Bの復習 数学全範囲の演習	問題演習(共通テスト対応) 問題演習(記述試験対応)			特編授業I 特編授業II	38			
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度				
	ベクトル、複素数平面及び式と曲線における基本的な概念、原理、法則などを体系的に理解し基礎的な知識を身に付け、数学的に処理する仕方や推論方法などの技能を身に付けている。		当該分野において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方、考え方や表現の仕方を身に付けている。			当該分野における考え方に興味を持つと共に、数学のよさを認識し、事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいた探究をしようとする。				
評価方法	定期考査 小テスト		定期考査、小テスト 課題レポート			提出物 課題レポート				

令和8年度シラバス【数学研究Ⅰ】

長野県伊那北高等学校

科目	数学研究Ⅰ		単位数	3	授業時間 [総時数]	55分 [96回]	学年	3	学科	普通科
使用教科書	なし		副教材等		共通テスト分野別演習 数学Ⅰ・A/Ⅱ・B・C					
学習の目標	既習の数学ⅠAⅡBについて、より深く理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する応用力を培い、数学の良さを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。共通テスト対策として演習力を身につけ、学力の定着をはかる。									
具体的な取り組み・指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査、小テストなどを行う。</li> <li>・演習を利用して、学習の自己評価を行い各単元の理解を深める。</li> <li>・課題を出して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。</li> </ul>									
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数			
4	数Ⅰ	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく。	数学Ⅰの復習・演習				24			
5	数A		数学Aの復習・演習							
6	数Ⅱ		数学Ⅱの復習・演習							
第1回考査							1			
6	数Ⅱ	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく。	数学Ⅱの復習・演習				24			
7	数B		数学Bの復習・演習							
8	数C		数学Cの復習・演習							
9	数Ⅰ 数A		数学Ⅰの復習・演習 数学Aの復習・演習							
第2回考査							1			
9	数ⅠA	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく。	数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・Cの演習				24			
10	数Ⅱ									
11	BC									
第3回考査							1			
12	演習1	数ⅠAⅡBCの復習 数学全範囲の演習	問題演習（共通テスト対応）			特編授業	24			
1	演習2		問題演習（記述試験対応）							
2										
3										
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度				
	既習の数学ⅠAⅡBCにおける基本的な概念、原理、法則などを深く理解し、それらを基により発展的な知識を身に付け、数学的に処理する仕方や推論方法などの技能を習得している。		当該分野において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方、考え方や処理する技能を身に付けている。			当該分野における考え方に興味を持つと共に、数学のよさを認識し、事象の考察に積極的に活用して数学的な考え方に基づいた探究をしようとする。				
評価方法	定期考査 小テスト		定期考査 課題レポート			演習 課題レポート				

令和8年度シラバス【数学研究Ⅱ】(理1・文)

長野県伊那北高等学校

科目	数学研究Ⅱ		単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学年	3	学科	普通科
使用教科書	なし		副教材等		新課程 メジアン数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C 受験編					
学習の目標	既習の数学ⅠAⅡBCについて、より深く理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する応用力を培い、数学の良さを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。記述試験・共通テスト対策として問題演習に取り組み、演習力を身につけ、学力の定着をはかる。									
具体的な取り組み・指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査、小テストなどを行う。</li> <li>・演習を利用して、学習の自己評価を行い各単元の理解を深める。</li> <li>・課題を出して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。</li> </ul>									
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数			
4	数Ⅰ	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく。	数と式、関数と方程式・不等式				15			
5	数A		式と証明・論理、整数の性質							
6			場合の数・確率、図形の性質							
第1回考査							1			
6	数Ⅱ	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく。	図形と式、三角・指数・対数関数				15			
7	数B		微分法・積分法、数列、ベクトル、統計							
8	数C									
9	数Ⅰ 数A		以降、繰り返し							
第2回考査							1			
9	数ⅠA	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく。	数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・Cの演習				15			
10	数ⅡB									
11	数C									
第3回考査							1			
12	演習1	数ⅠAⅡBCの演習 数学全範囲の演習	問題演習(共通テスト対応)			特編授業	19			
1	演習2		問題演習(記述試験対応)							
2										
3										
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度				
	既習の数学ⅠAⅡBCにおける基本的な概念、原理、法則などを深く理解し、それらを基により発展的な知識を身に付け、数学的に処理する仕方や推論方法などの技能を習得している。		当該分野において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方、考え方を適切に表現・処理する技能を身に付けている。			当該分野における考え方に興味を持つと共に、数学のよさを認識し、事象の考察に積極的に活用して数学的な考え方に基づいた探究をしようとする。				
評価方法	定期考査 小テスト		定期考査 課題レポート			演習 課題レポート				

令和8年度シラバス【数学研究Ⅱ】(理2)

長野県伊那北高等学校

科目	数学研究Ⅱ		単位数	4	授業時間 [総時数]	55分 [128回]	学年	3	学科	普通科
使用教科書	なし		副教材等		新課程 メジアン数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C 受験編					
学習の目標	既習の数学ⅠAⅡBCについて、より深く理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する応用力を培い、数学の良さを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。記述試験・共通テスト対策として問題演習に取り組み、演習力を身につけ、学力の定着をはかる。									
具体的な取り組み・指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査、小テストなどを行う。</li> <li>・演習を利用して、学習の自己評価を行い各単元の理解を深める。</li> <li>・課題を出して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。</li> </ul>									
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数			
4	数Ⅰ	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく。	数と式、関数と方程式・不等式				32			
5	数A		式と証明・論理、整数の性質							
6			場合の数・確率、図形の性質							
第1回考査							1			
6	数Ⅱ	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく。	図形と方程式、三角・指数・対数関数				32			
7	数B		微分法・積分法、数列、ベクトル、統計							
8	数C		以降、繰り返し							
9	数Ⅰ 数A									
第2回考査							1			
9	数ⅠA	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく。	数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・Cの演習				32			
10	数ⅡB									
11	数C									
第3回考査							1			
12	演習1	数ⅠAⅡBCの演習	問題演習(共通テスト対応)			特編授業	32			
1	演習2	数学全範囲の演習	問題演習(記述試験対応)							
2										
3										
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度				
	既習の数学ⅠAⅡBCにおける基本的な概念、原理、法則などを深く理解し、それらを基により発展的な知識を身に付け、数学的に処理する仕方や推論方法などの技能を習得している。		当該分野において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方、考え方を適切に表現・処理する技能を身に付けている。			当該分野における考え方に興味を持つと共に、数学のよさを認識し、事象の考察に積極的に活用して数学的な考え方に基づいた探究をしようとする。				
評価方法	定期考査 小テスト		定期考査 課題レポート			演習 課題レポート				

科目	理数数学Ⅱ		単位数	5	授業時間 [総時数]	55分 [160回]	学年	3	学科	理数科
使用教科書	数学Ⅲ (数研出版)		副教材等		新課程4STEP 数学Ⅲ+C 新課程クリアー数学演習Ⅲ・C 新課程チャート式 基礎からの数学Ⅲ+C					
学習の目標	複素数平面、式と曲線、極限、及び微分法・積分法について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学の良さを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。									
具体的な取り組み・指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査、ウィークリーテスト等を利用して、学習の自己評価を行う。</li> <li>・課題への取り組みを知識・技能の習得の助けとするとともに、思考力・判断力・表現力の向上も目指す。</li> </ul>									
月	単元名	学習目標	学習内容			備考	時数			
4	第2章	微分法の基本を押さえ、演習も併せて行うことにより、応用についても理解を深める。	関数の極限			2年次から継続	39			
5	第3章		微分法							
6	第4章		微分法の応用							
6	第5章		不定積分							
第1回考査							1			
6	第5章	積分法の基本を押さえ、演習も併せて行うことにより、応用についても理解を深める。	定積分			39				
7			積分法の応用							
8										
9	演習									
第2回考査							1			
9	演習	演習を通して、各分野についての理解を深める。	複素数平面、式と曲線、微分法・積分法			39				
10			数学Ⅲ、数学Cの復習							
11										
第3回考査							1			
12	演習	数学ⅠAⅡBCの復習 数学Ⅲの復習	問題演習（共通テスト対応）			特編授業Ⅰ 特編授業Ⅱ		40		
1			問題演習（記述試験対応）							
2										
3										
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度				
	上記分野について、数学における基本的な概念、原理、法則などを体系的に理解し、事象の数学化・数学的解釈・数学的表現や処理をする技能を身に付けている。		事象を数学的に捉え、論理的・統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけている。			数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、事象を数学的に探究しようとする態度をもって学習に取り組んでいる。				
評価方法	定期考査 ウィークリーテスト(小テスト)		定期考査、ウィークリーテスト 課題レポート			提出物（プリント、ノート） 課題レポート				

令和8年度シラバス【理数数学特論】

長野県伊那北高等学校

科目	理数数学特論		単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学年	3	学科	理数科
使用教科書	なし		副教材等		2026スタンダード数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C受験編					
学習の目標	既習の数学ⅠAⅡBCについて、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図ることにより、事象を数学的に考察する応用力を培い、数学の良さを認識できるようにするとともに、それらを活用する力を高める。また、記述試験・共通テスト対策として問題演習に取り組み、演習力を身につけ、学力の定着をはかる。									
具体的な取り組み・指導上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査、小テストを利用して、学習の自己評価を行う。</li> <li>・課題への取り組みを知識・技能の習得の助けとするとともに、思考力・判断力・表現力の向上も目指す。</li> </ul>									
月	単元名	学習目標	学習内容			備考	時数			
4	数Ⅰ	各単元の内容の理解を問題演習により深める。また、複数単元に関連する事柄についても気づきながら演習を行う。	数と式、関数と方程式・不等式				15			
5	数A		式と証明・論理、整数の性質							
6			場合の数と確率、図形の性質							
第1回考査							1			
6	数Ⅱ	各単元の内容の理解を問題演習により深める。また、複数単元に関連する事柄について気づきながら演習を行う。	図形と式、三角・指数・対数関数				15			
7	数BC		微分法・積分法、数列、ベクトル							
8	数ⅠB		統計							
9			以降、繰り返し							
第2回考査							1			
9	演習		数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・Cの演習				15			
10										
11										
第3回考査							1			
12	演習	数ⅠAⅡBの復習 数学全範囲の演習	問題演習（共通テスト対応）			特編授業	16			
1			問題演習（記述対応）							
2										
3										
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度				
	上記分野について、数学における基本的な概念、原理、法則などを体系的に理解し、事象の数学化・数学的解釈・数学的表現や処理をする技能を身に付けている。		事象を数学的に捉え、論理的・統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけている。			数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、事象を数学的に探究しようとする態度をもって学習に取り組んでいる。				
評価方法	定期考査 小テスト		定期考査、他テスト 課題レポート			提出物（プリント、ノート） 課題レポート				

令和8年度シラバス【生物】

長野県伊那北高等学校

科目	生物	単位数	3	授業時間 [総時間]	55分 [96回]	学年	3	普通科
使用教科書	高等学校 生物 (啓林館)	副教材等	センサー生物 (啓林館) WINSTEP生物 (ラーズ) スクエア最新図説生物					
学習の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見かた・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生命現象を科学的に探求するために必要な資質能力を身に着ける。							
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。</li> <li>科学的に探求するために必要な観察、実験等に関する基本的な技能を身に着ける。</li> <li>観察、実験などを行い、生物や生物現象に主体的に関わり探求する力を養う。</li> <li>定期考査を利用して、学習の自己評価を行う。</li> </ul>							
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数	
4 5 6	第4部 生物の環境応答 刺激の需要と反応 動物の行動 植物の環境応答	<ul style="list-style-type: none"> <li>刺激の受容</li> <li>神経、神経系</li> <li>効果器</li> <li>生得的行動、学習</li> <li>植物の生殖と発生</li> <li>発芽と成長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境に適応して進化してきた生物の体内のメカニズムとその発露について理解する</li> </ul>	○	○	○	12	
				○	○			
				○	○			
				○	○			
				○	○			
◎第1回考査				○	○	○	1	
6 7 8 9	第5部 生態と環境 個体群と生物群集 生態系	<ul style="list-style-type: none"> <li>個体群とその変動</li> <li>種内関係</li> <li>種間関係</li> <li>生態系と物質生産、生態系と人間生活</li> <li>問題演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生態系の重要性を理解する</li> <li>生態系の成り立ちの基本を知る</li> </ul>	○	○		10	
				○	○			
				○	○			
				○	○			
				○	○	○		11
◎第2回考査				○	○		1	
10 11		<ul style="list-style-type: none"> <li>問題演習</li> <li>実験</li> </ul>		○	○	○	22	
				○	○	○		
◎第3回考査				○	○	○	1	
12 1 2		<ul style="list-style-type: none"> <li>問題演習</li> </ul>		○	○	○	27	
				○	○	○		
評 価 規 準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	生命現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。		既知の生命現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している		生命現象に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。			
評 価 方 法	小テスト 実験レポート 定期考査		小テスト 実験レポート 定期考査		実験レポート 定期考査			

令和8年度シラバス【理数生物】

長野県伊那北高等学校

科目	理数生物	単位数	3	授業時間 [総時間]	55分 [96回]	学年	3	理数科
使用教科書	高等学校 生物 (啓林館)	副教材等	センサー生物 (啓林館) WINSTEP生物 (ラーズ) スクエア最新図説生物					
学習の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見かた・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生命現象を科学的に探求するために必要な資質能力を身に着ける。							
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。</li> <li>科学的に探求するために必要な観察、実験等に関する基本的な技能を身に着ける。</li> <li>観察、実験などを行い、生物や生物現象に主体的に関わり探求する力を養う。</li> <li>定期考査を利用して、学習の自己評価を行う。</li> </ul>							
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数	
4 5 6	第4部 生物の環境応答 刺激の需要と反応 動物の行動 植物の環境応答	<ul style="list-style-type: none"> <li>刺激の受容</li> <li>神経、神経系</li> <li>効果器</li> <li>生得的行動、学習</li> <li>植物の生殖と発生</li> <li>発芽と成長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境に適応して進化してきた生物の体内のメカニズムとその発露について理解する</li> </ul>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	12	
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
◎第1回考査				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1	
6 7 8 9	第5部 生態と環境 個体群と生物群集 生態系	<ul style="list-style-type: none"> <li>個体群とその変動</li> <li>種内関係</li> <li>種間関係</li> <li>生態系と物質生産、生態系と人間生活</li> <li>問題演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生態系の重要性を理解する</li> <li>生態系の成り立ちの基本を知る</li> </ul>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	10	
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
◎第2回考査				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1	
10 11		<ul style="list-style-type: none"> <li>問題演習</li> <li>実験</li> </ul>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	22	
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
◎第3回考査				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1	
12 1 2		<ul style="list-style-type: none"> <li>問題演習</li> </ul>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	27	
評 価 規 準	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	生命現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。		既知の生命現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している	生命現象に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。				
評 価 方 法	小テスト 実験レポート 定期考査		小テスト 実験レポート 定期考査	実験レポート 定期考査				

令和8年度シラバス【化学】

長野県伊那北高等学校

科目	化学	単位数	3	授業時間 [総時間]	55分 [96回]	学年	3	普通科		
使用教科書	化学 (数研出版)	副教材等	リードα化学基礎+化学(数研出版) フォローアップドリル化学(数研出版) スクエア最新図説化学(第一学習社)							
学習の目標	化学や化学現象に関わり、科学的な見かた・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、様々な化学現象を科学的に探求するために必要な資質能力を身に着ける。									
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、化学に関する知識を深める。</li> <li>・科学的に思考し判断するために必要な観察、実験等に関する基本的な技能を身に着ける。</li> <li>・実験を通して、化学反応や身近にある化学変化に主体的に関わり探究する力を養う。</li> <li>・定期考査を利用して、学習の自己評価を行う。</li> </ul>									
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数			
4	第3編 無機化学 1章 非金属元素	1 元素の分類と周期表	様々な元素の単体・化合物の性質を、周期表上の位置や電子配置といった既習内容と関連付けながら理解し、定着させる。	○	○		9			
		2 水素・貴ガス元素		○	○					
		4 ハロゲン元素 (実験)		○	○	○				
		5 酸素・硫黄 (実験)		○	○	○				
		6 窒素・リン (実験)		○	○	○				
		7 炭素・ケイ素		○	○					
5	2章 金属元素(I)	1 アルカリ金属元素 (実験)	有機化合物の特徴や、性質について、分子構造と関連付けながら理解し定着させる。	○	○	○	6			
		2 アルカリ土類金属元素 (実験)		○	○	○				
		3 アルミニウム・スズ・鉛		○	○					
	3章 金属元素(II)	1 遷移元素の特徴		○	○			6		
		2 鉄		○	○					
3 銅		○	○							
4 銀・金		○	○							
6	第4編 有機化合物 1章 有機化合物の特徴と分類	1 有機化合物の特徴と分類	有機化合物の特徴や、性質について、分子構造と関連付けながら理解し定着させる。	○	○		2			
		2 有機化合物の分析		○	○					
	2章 脂肪族炭化水素	1 飽和炭化水素 (実験)		○	○	○	5			
		2 不飽和炭化水素 (実験)		○	○	○				







科目	物理 理数物理	単位数	3	授業時間 [総時間]	55分 [96回]	学年	3	普通科 理数科
使用教科書	物理基礎（数研出版） 物理（数研出版）	副教材等	フォローアップドリル物理（数研出版） リードα物理基礎＋物理（数研出版） 標準編 物理 理系問題（駿台文庫）					
学習の目標	物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成すること。							
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	(1) 物理学における基本的な概念、原理・法則などについての系統的な理解を深め、科学的に探究するために必要な知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 物理的な事物・現象に関して、観察、実験などを行い科学的に探究する力を養う。 (3) 自然に対する関心を高め、事物・現象を科学的に探究しようとする態度を養う。							
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数	
4	第4編 電気と磁気 第1章 電場 第2章 電流	5 コンデンサ	各物理現象に関する概念を理解し、基本事項の修得を目指す。文章を読んで状況を理解し、どの基本事項を使って現象を解き明かすのかを考えられることを目指す。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	4	
		1 オームの法則		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1	
2 直流回路	※実験含む	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	6		
3 半導体		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1		
5	第3章 電流と磁場	1 磁場		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1	
		2 電流のつくる磁場		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1	
		3 電流が磁場から受ける力		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2	
		4 ローレンツ力		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2	
6	第4章 電磁誘導と電磁波	1 電磁誘導の法則		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2	
		2 自己誘導と相互誘導		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2	
第1回定期考査				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1	
7	第5編 原子 第1章 電子と光	3 交流の発生	各物理現象に関する概念を理解し、基本事項の修得を目指す。文章を読んで状況を理解し、どの基本事項を使って現象を解き明かすのかを考えられることを目指す。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2	
		4 交流回路		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	6	
		5 電磁波		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1	
		1 電子		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2	
		2 光の粒子性		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2	
8	第2章 原子と原子核	3 X線		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1	
		4 光の波動性		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1	
		1 原子の構造とエネルギー準位		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	3	
		2 原子核		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	3	
9	第2章 原子と原子核	3 放射線とその性質		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
		4 核反応と核エネルギー	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
9	高校物理の総復習	5 素粒子	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
		力学 ※ 復習・教科書演習問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	3		
第2回定期考査				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1	
10	高校物理の総復習	熱力学 ※ 復習・教科書演習問題	各物理現象に関する概念を理解し、基本事項の修得を目指す。文章を読んで状況を理解し、どの基本事項を使って現象を解き明かすのかを考えられることを目指す。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	5	
		波動、電気と磁気、原子分子		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	10	
11	高校物理 総合問題	問題演習		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	10	
		問題演習		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	10	
第3回定期考査				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1	
12,1,2	高校物理 総合問題	問題演習		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	22	
評 価 規 準	知識・技能			思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。			自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。			
方 評 法 価	小テスト 実験レポート、定期考査			実験レポート 定期考査	発言・質問 実験レポート、課題提出			





科目	基礎理科(生物基礎)	単位数	1.5	授業時間 [総時間]	55分 [48回]	学年	3	普通科		
使用教科書	i版 生物基礎 (啓林館)	副教材等	大学入学共通テスト対策 チェック&演習 生物基礎 (数研)							
学習の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見かた・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生命現象を科学的に探求するために必要な資質能力を身に着ける。									
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や社会との連携を図りながら、生物や生物現象について理解する。</li> <li>科学的に探求するために必要な基本的な技能を身に着ける。</li> <li>定期考査を利用して、学習の自己評価を行わせる。</li> </ul>									
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数			
4 5 6	生物の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物の特徴、共通性</li> <li>原核細胞と真核細胞</li> <li>マイクロメーターを用いた測定</li> <li>代謝 (ATP、呼吸と光合成、酵素)</li> <li>問題演習</li> </ul>	・問題演習を通して1年次に身につけた知識を確認するとともに、各単元の応用問題への対応力を身につける。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	4			
	遺伝子とのはたらき	<ul style="list-style-type: none"> <li>DNAの構造</li> <li>体細胞分裂とDNA量の変化</li> <li>転写、翻訳</li> <li>問題演習</li> </ul>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		4		
	神経系と内分泌系による調節	<ul style="list-style-type: none"> <li>恒常性 (自律神経系)</li> <li>体液組成とその循環</li> </ul>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			1	
【第1回考査】				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1			
6 7 8 9	神経系と内分泌系による調節	<ul style="list-style-type: none"> <li>恒常性 (ホルモン)</li> <li>体内環境の維持 (血糖濃度、体温)</li> <li>体内環境の維持 (フィードバック)</li> <li>腎臓と肝臓のはたらき (・酸素解離曲線)</li> <li>問題演習</li> </ul>	・問題演習を通して1年次に身につけた知識を確認するとともに、各単元の応用問題への対応力を身につける。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	3			
	免疫のはたらき	<ul style="list-style-type: none"> <li>生体防御のしくみ</li> <li>自然免疫と適応免疫</li> <li>免疫と疾患</li> <li>問題演習</li> </ul>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		3		
	植生の多様性と分布	<ul style="list-style-type: none"> <li>植生と遷移</li> <li>遷移のしくみ (光の強さと光合成)</li> </ul>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			1	
【第2回考査】				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1			
9 10 11		<ul style="list-style-type: none"> <li>世界のバイオーム</li> <li>日本のバイオーム</li> <li>問題演習</li> </ul>	・問題演習を通して1年次に身につけた知識を確認するとともに、各単元の応用問題への対応力を身につける。 ・過去問や総合問題を通して全単元の総復習を行う。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2			
	生態系とその保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>生態系と栄養段階</li> <li>生態系のバランス</li> <li>人間活動と生態系、生態系の保全</li> <li>問題演習</li> <li>総合演習</li> </ul>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		3		
	【第3回考査】				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	4
【第3回考査】				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1			
12 1		・総合演習	・対策問題を通して共通テストを意識した解き方を身につける。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	20			
評 価 規 準	知識・技能	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。	思考・判断・表現 自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。	主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。						
	評 価 方 法	小テスト 定期考査	実験レポート 定期考査	発言・質問 実験レポート 定期考査						

令和8年度シラバス【音楽探究】

長野県伊那北高等学校

科目	音楽探究	単位数	3	授業時間 [総時間]	55分 [96回]	学年	3	普通科
使用教科書		副教材等	愛唱歌集（長野県高等学校音楽教育研究会）					
学習の目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指す。							
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現分野（歌唱、器楽、創作）では、個々の段階、希望する進路に応じた題材を学習する。</li> <li>・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について取り扱う。</li> <li>・楽曲について考えを深め、評価する活動を取り入れる。</li> <li>・音楽系に進学を考えている生徒が履修している場合は、楽典やソルフェージュなども扱う。</li> </ul>							
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数	
4 5 6 7	・日本歌曲 ・諸外国の歌曲 ・器楽（ピアノ）	・日本歌曲の特徴、歌唱法 ・歌曲の特徴に合った歌唱法 ・演奏における自己表現の工夫	・言語による歌唱法の特徴や違いについて考え、歌唱で表現する。 ・自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫する。	○	○	○	36	
8 9 10 11	・楽典 ・音楽史	・作曲の基本 ・日本のポップス史、ジャズの歴史	・作曲を通して創意工夫を生かした音楽表現を身につける。 ・西洋音楽史以外の音楽ジャンルの発展について理解を深める。	○	○	○	36	
12 1 2	・器楽（ピアノ、ギター） ・ソルフェージュ	・ソロによる様々なジャンルの演奏（ジャズの即興演奏） ・聴音、新曲視唱、読譜、記譜	・履修者の実情に合わせて実技課題を設定し、練習に取り組む。 ・楽器の発展的な奏法について学ぶ。 ・履修者の実情に合わせて課題に取り組む。音楽大学等への進学予定者は入試問題に対応できる力をつける。	○	○	○	24	
評価 規 準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	①曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解している。 ②創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。	①音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫したり音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができる。	①主体的・協働的に音楽の学習に取り組もうとする。 ②自らの学習状況を把握し、それを踏まえ試行錯誤するなど、自ら学ぼうとしている。					
評価 方 法	プリント課題 小テスト 実技テスト	小テスト 練習の取り組み 実技テスト	プリント課題 質問 練習の取り組み					

令和8年度シラバス【美術探究】

長野県伊那北高等学校

科目	美術探究		単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [64回]	学年	3	普通科
使用教科書	高校生の美術1 (日本文教出版) 高校生の美術2 (日本文教出版)		副教材等						
学習の目標	美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指す。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象や事象を捉える造形的な視点を深めるとともに、意図にお応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。</li> <li>・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったりすることができるようにする。</li> <li>・主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み生涯にわたり美術を愛好する心情を育む。</li> </ul>								
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数		
4 5	・PEN祭ポスター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊那北高校の分身としてクライアントに伝えたい内容が、印象的に、かつ的確に伝わるよに、描画材料の特徴を生かしながら表現する。</li> <li>・訴求力、印象、情報をわかりやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに沿った表現ができる。</li> <li>・ポスターの趣旨を理解し、造形要素の働きにより、クライアントにより明瞭で分かりやすく独創的なデザインができる。</li> </ul>	○	○	○	15		
6 7	・鉛筆デッサン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象をよく観察し、与えられたモチーフを線と明暗でものを表現する。</li> <li>・物のかたちの成り立ちを理解し、量感を的確に表現するとともに質感の違いを鉛筆で表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・描画の面白さや楽しさを味わうとともに、表現方法を工夫し主題を追求しようとしている。</li> <li>・描画材料の特性や効果を生かし線と明暗での表情を表せる。</li> </ul>	○	○	○	15		
8 9	・校章デザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えたい内容やイメージを視覚的に表現に記号化し親しまれるデザインを考案する。</li> <li>・形や色、また用いる文字の書体等を工夫しを表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合する2校の歴史や伝統を踏まえながらも新たな校風を生み出すデザインを考案する。</li> <li>・誰が見ても印象に残り、100年後も色褪せないものとする。</li> </ul>	○	○	○	15		
10 11 12	・椅子デザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・椅子の役割や機能性を理解し決められた材料の中で創意工夫し組み立て分解可能な椅子のデザインを考案する。</li> <li>・物理的な視点と造形的な視点を融合し普遍的で独創的な形を生み出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の中で欠かせない椅子の造形的な美しさに関心を持ち、その目的、機能について考え実際に使用できるものを制作できる。</li> <li>・イメージを形にできる。</li> </ul>	○	○	○	15		
1 2	・自由制作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の経験から主題を生成し、私にしか分からない感情や感覚をテーマとする。</li> <li>・美術の授業の集大成として、自らテーマや表現素材を決め制作する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。</li> <li>・個性豊かに発想し構想を練ったりすることができる。</li> </ul>	○	○	○	14		
評価 規 準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
	①対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ②表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。 ③基本的な技能を習得し、画材や用具を適切に用い表現できている。		①造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。 ②自分から湧き出たアイデアを生かし独創的な表現に繋がられる。		①主体的に美術の創造的な諸活動に取り組もうとしている。 ②常により良い表現を求め行動し、作品の完成度を上げようと試行錯誤を繰り返している。				
評価 方 法	作品 発表・鑑賞 アイデアスケッチ レビューペーパーなど		作品 発表・鑑賞 アイデアスケッチ レビューペーパーなど		作品 発表・鑑賞 アイデアスケッチ レビューペーパーなど				

令和8年度シラバス【学際英語αⅢ】

長野県伊那北高等学校

科目	学際英語αⅢ	単位数	3	授業時間 [総時間]	55分 [96回]	学年	3	普通科 理数科
使用教科書	Heartning III	副教材等	『必携英単語LEAP』（数研出版）、『LOOP②』（啓隆社） 『共通テスト英語読解トレーニング』（エミル出版）ほか					
学習の目標	国際化が進む社会に生きる地球市民として、仲間と切磋琢磨しながら英語を学ぶことで自らの世界を広げ、バランスの取れた英語の運用能力を高めることで自らの未来を切り拓いていくことを目指す。社会科学、人文科学、科学技術等多岐にわたる英文を読んだり聞いたりする中で内容を理解し、視野を広げ、派生する問題について考察し、自らの意見や考えを英語で書いたり、話したり、議論したりできる。							
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	(1) 総合的な英語力の向上を目指し、5つの領域(Listening, Reading, Interaction, Presentation, Writing)をバランスよく取り入れた活動に取り組む。 (2) やさしいレベルのものから順を追って大量にインプットし、英語を英語のまま理解できるための素地を作るとともに読解力の向上を目指す。授業・家庭学習を通して自律した学習者を目指す。 (3) 授業ではペアワーク等を積極的に取り入れ、考えながら主体的・協働的に学ぶようにする。							
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数	
4 ～ 6	Lesson1 What Makes Up Your Identity? Lesson2 Predicting Future technology Lesson4 Diversity and Inclusion Lesson5 Protein Crisis	社会科学、人文科学、科学技術の各ジャンルに関する題材について、リーディング（精読・速読）・リスニング・要約を中心としたライティング・感想等を発表するスピーキング等を通じて理解する。	精読：文法的解説ができる。 速読：100～120wpmの速度で読み理解できる。 リスニング：文を見ながら初聴で必要な情報取得、話の流れの理解ができる。 ライティング：内容の英文要約並びに英語で感想文が書ける。 スピーキング：他の生徒と題材及びそれに関する事項について簡単な意見交換ができる。	◎ ◎ ○ ○	○ ○ ◎ ◎	○ ○ ○ ◎	28	
6 ～ 9	Lesson7 Pros and Cons of Utilizing AI Lesson8 Kintyugi: The Art of Embracing the Imperfect	長文読解演習を通じ、語彙・文法等の知識や技能を活用して大学入試問題程度の英文を理解する。	指定された速読スピードで読んで内容が理解できる。 設定時間で設問に正答できる。	○	◎	○	28	
10 ～ 12	Lesson9 Getting Your Message Across Lesson10 Medical Ethics During a Pabdemc	共通テストレベルの問題に対する解法を探求することで総合的かつスピーディーな英文理解を進める。	設定時間で各自設定した正答率を確保できる。	○	◎	○	28	
1 ～ 2		それぞれの進路目標に合わせた総合的な英語力向上を図る。	各自の目標を設定する。	○	◎	○	12	
評価 規 準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	英文を理解できる語彙を身につけ、十分な文法・語法の知識があり、英文や英語で書かれた文章を読んだり聞いたりして理解する力がある。		情報・事実・意見を読み取り、理解できる思考力・判断力がある／書かれた内容や自分の考えを自分の言葉でまとめ、伝えるように表現する力をつけている。		自ら背景情報を探り、不足の点を補う努力を成果に結びつけることができる。 積極的に英語を学ぼうとする姿勢がある。			
評価 方 法	考査（定期考査、課題テスト、整理テスト、小テスト等）等		授業中に課された課題、考査、設定課題への解答内容、提出課題等		ペアワーク・グループワークの取り組み、課題提出や小テストへの取り組み、授業内での発言、考査等試験範囲への取り組み等			

令和8年度シラバス【学際英語βⅢ】

長野県伊那北高等学校

科目	学際英語βⅢ		単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [64回]	学年	3	普通科 理数科
使用教科書	FACTBOOK English Logic and Expression III (桐原書店)		副教材等	『Bright Stage』(桐原書店)、『FINAL DRAFT』(いいずな書店) 『ランダム演習形式によるクローザー頻出英文法・語法問題』(文英堂) ほか					
学習の目標	国際化が進む社会に生きる地球市民として仲間と切磋琢磨しながら英語を学び、世界を広げ、特に話すこと[やりとり]・話すこと[発表]・書くことの領域の力を高めることで自らの未来を切り拓いていくことを目指す。基礎となる文法や場面に応じた表現を学びながら、ライティング、スピーキングにおける表現能力を高める。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	(1) 5つの領域の活動を取り入れ、特に英語を話したり、書いたりする発信力を高めることを目指す。 (2) 基本的な語彙や表現の定着を図り、身近な話題について明確に伝わる表現ができるようにする。 (3) ペアワーク等を積極的に取り入れ、協働的に学び、お互いに高め合えるようにする。								
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数		
4 ～	AIと将来の職業 高校生活での成長 ニュースサービスの利用	ライティングの基本(文章の構造)	型を意識してディスコ-スマ-カ-、トリックを使った簡単な文が作れる。	◎	○	○	14		
6	3Rと環境保護 キャッシュレス決済	プレゼンテーション、ディスカッション、 ディベートの基本(場面に即した発話)	主張を展開する場面に合わせた発話の準備ができ、積極的に話そうとする姿勢がとれる。	○	○	◎	10		
7 ～	食品添加物 日本文化	ライティングの基本(演習)	文法を意識して英文を作成することができる。	◎	○	○	30		
11	脱炭素社会 社会的な差別の問題	効果的な表現のための文法力強化	既習範囲の文法を適切に使うことができる	◎	○	○			
12 ～ 2	英作文演習	大学入試問題程度の日常的な情報文書を読み取る。	WEB,広告等の内容を短時間に読み取ることができる。	○	◎	○	10		
評 価 規 準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
	基本的な文章構成を理解しているとともに、文章や会話の内容を理解するための語彙、英文法や構文の知識を身につけている		情報・事実・意見を読み取り、理解できる思考力・判断力がある／書かれた内容や自分の考えを自分の言葉でまとめ、伝わるように表現する力をつけている		授業や家庭学習において目標を持ち、主体的に取り組んでいる／仲間と協働しながら積極的に言語活動に取り組んでいる				
評 価 方 法	考査(定期考査、課題テスト、小テスト等)		授業中に課された課題考査(英作文)等		ペアワーク・グループワークの取り組み、課題提出や小テスト、および考査等試験範囲への取り組み等				

令和8年度シラバス【プラクティカル・イングリッシュ・スピーキング】

長野県伊那北高等学校

科目	Practical English Speaking	単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [64回]	学年	3	普通科
使用教科書	Vantage Point	副教材等						
学習の目標	テキストの様々なトピックをもとに、地球規模で語られる様々なテーマについて、語彙を増やし、知識を広げ、考えを深めながら、調べたことをまとめて発表したり、議論したりする。							
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	ALTと協力して、テキストをフルに活用して、生徒が英語で学び、英語で自分の意見を書いたり話したりする機会を増やす。							
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数	
4	Food and Health	Food and Culture, Diets, Saving Lives	関連語彙を身につけ、関連英文を読み内容を理解し、考えをまとめて発表したり、グループで議論したりする				6	
5							6	
6	Technology	Identity Theft, Digital Learning, AI					6	
7							6	
8	Sports	Professional Athletes, The Olympics, Cheating		○	◎	◎	4	
9							6	
10	Cultural Difference	Attitude, Communication, Time					8	
11							6	
12	Society	Education, Immigration, Gender Differences					6	
1							6	
2	試験対策			◎	○	○	4	
評 価 規 準	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	トピックに関連する語彙を身につけ、関連する英文の内容を理解することができる。		自分の考えを適切な英語で表現し、理解してもらえる情報発信力を培っている。	自らに必要な力を理解し、それを伸ばすため言語活動などに意欲的に取り組む。				
評 価 方 法	授業、定期考査		発言、質問、発表、ディスカッション 定期考査	発言、質問、発表、ディスカッション 定期考査				

令和7年度シラバス【Practical English Writing (プラクティカル・イングリッシュ・ライティング)】

長野県伊那北高等学校

科目	Practical English Writing	単位数	3	授業時間 [総時数]	55分 [96回]	学年	3	学科	普通科
使用教科書	Steady Steps to Writing	副教材等		英語発信のためのナビゲーター Standard					
学習の目標	まずは基本の文法項目を確認しながら短文の英作文に対する精度をあげる。次にパラグラフライティングに向け、文章の構成を意識しつつ、纏まりのある文章が書ける様にする。最終的に豊かな発想力や表現力を用いて、さまざまなテーマに対して自分の意見を英語で書くことを目標とする。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	文法項目別に、基本事項の確認や文整序などのウォーミングアップを経て、短い英作文を正確書く力を身につけさせる。ある程度文法の知識を得るごとに、パラグラフライティングの基礎を学ぶ。その後、習得した知識を活かし、様々なテーマについて自由英作文に取り組み、自分の意見を理論的且つ纏まりのある文で書ける様にする。更に入試問題の過去問を扱いながら添削を繰り返し、より実践的な自由英作文能力を高めていく。								
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数		
4	時制	文法項目を確実に理解し、短文を確実に英語で書く。	文法理解、和文和訳、別表現への言い換え 英作文・パラグラフライティング① 自由英作文				28		
5	助動詞								
6	仮定法								
第1回考査							1		
6	態	文法項目を確実に理解し、短文を確実に英語で書く。パラグラフライティングに慣れる。	文法理解、和文和訳、別表現への言い換え 英作文・パラグラフライティング② 自由英作文				8		
7	準動詞						8		
8	分詞						7		
9									
第2回考査							1		
9	関係詞	文法項目を確実に理解し、短文を確実に英語で書く。パラグラフライティングに慣れる。論理的な文章作成	文法理解、和文和訳、別表現への言い換え 英作文・パラグラフライティング③④ 自由英作文				12		
10	比較						12		
11	否定								
第3回考査							1		
12		問題演習	入試問題および自由英作文能力作成			入試ライティング 教材や過去問	18		
1									
2									
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
	自由作文に必要なとなる基本の文法や、論理的な文章構成を作成する技能を身につけている。		授業で学習したことを基に正しく英文が書け、自分の意見を論理的に表現できている。			自分が伸ばすべき力を把握し、課題に目標を持って取り組んでいる。自由英作文で、自分の意見を精一杯伝えようとする。			
評価方法	自由英作文 課題 定期考査		自由英作文 課題 定期考査			自由英作文 発言、定期考査			

令和8年度シラバス【英語探究】

長野県伊那北高等学校

科目	英語探究	単位数	3	授業時間 [総時間]	55分 [96回]	学年	3	普通科
使用教科書	SKYWARD (SKY) CNN Workbook Extended Course 2026	副教材等	なし					
学習の目標	物事を多角的視点から探究、分析し、それに基づく情報を英語で発信出来る様にする為、その基盤となる多くの分野、領域に及ぶ発展的な英語題材の読解力を向上させる。併せて、生きた英語に対する感受性を高めリスニング力を高める。							
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実社会に関する題材を含め、多分野・多領域に及ぶ英語題材（教材）の読解、リスニング演習を行う。</li> <li>・情報を理解し、発信する力の元となる4技能の総合力を養成する為に問題演習を行う。</li> <li>・読解力を向上させるために、読み方のコツを学ぶと同時に英語構文を復習する。</li> </ul>							
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数	
First step								
4 ～ 6	SKYWARD(SKY) Unit1~6 CNN 1~6	教育 社会学 異文化理解	パラグラフリーディングによる入 試英文解釈の力をつける ネイティブのスピードに慣れる	◎	○	○	24	
Second step								
7 ～ 9	SKYWARD(SKY) Unit 7~14 CNN 7~14	科学技術 コミュニケーション 人権問題 生物	英文読解力向上 速読の力をつける。 ナチュラルスピードで大意を取る	◎	○	○	24	
Third step								
9 ～ 12	SKYWARD(SKY) Unit 15~20 CNN 15~20	AI 健康・食糧問題 グローバル社会	英文読解力向上 速読の精度をあげる 内容理解の精度をあげる	◎	◎	○	24	
	入試過去問題	科学・社会・経済・医療・環境・異文 化理解等広範囲にわたり、 600words~700wordsの英文を読み、設 問を解く	12月までに身に付けた知識を活 かし、難関国公立大、私立大レベ ルの難易度の英文読解力を完成さ せる。	○	○	◎	24	
評 価 規 準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	根本的な文章構成を理解しているとともに、論理的に文章を読解するための英文法や構文の知識を身につけている。	速読やリスニングの力が身に付いているとともに、内容理解や和訳の精度が高められている。	英文を通して取り扱われる題材について、ワークを効果的に用いて予習・復習を行い、自分なりの観点を持って探究する。					
評 価 方 法	ワーク・定期考査	ワーク・定期考査	発言、質問 ワーク取り組み状況 定期考査					

令和8年度シラバス【体育】

長野県伊那北高等学校

科目	体育	単位数	3	授業時間 [総時数]	55分 [96回]	学年	3	学科	普通科 理数科
使用教科書	現代高等保健体育(体育理論)	副教材等	なし						
学習の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質や能力を身に付ける。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付ける。</li> <li>・課題の解決に向けて思考・判断し、自己や仲間の考えたことを他者に伝える能力を身に付ける。</li> <li>・公正、協働、責任、参画などの態度を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ力を身に付ける。</li> </ul>								
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数		
4	体づくり 運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康、安全の確保とフェアなプレイ態度の育成</li> <li>・体力の向上を図ることのできる能力の育成と各種目技能の向上</li> <li>・個人技能の向上と集団における高度な動きの習得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体ほぐしの運動</li> <li>・スポーツテスト</li> <li>・ソフトボール、バレーボール、バドミントン、テニス、卓球から1種目選択</li> <li>・現代的なリズムのダンス</li> <li>・バレーボール、ソフトバレー、サッカー、テニスから1種目選択</li> <li>・豊かなスポーツライフの設計の仕方</li> </ul>			新校工事のため施設使用制限があり、種目を変更する可能性があります。	6		
5	球技Ⅰ						14		
6	ダンス						6		
7	球技Ⅱ						14		
8	体育理論						4		
9	陸上競技	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決におけるPDCAサイクルの習得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競走（長距離走）</li> <li>・サッカー、ソフトボール、バスケット、バドミントン、卓球から1種目選択</li> <li>・バスケット、卓球、ソフトバレー、ニュースポーツから1種目選択</li> <li>・豊かなスポーツライフの設計の仕方</li> <li>・選択したニュースポーツ</li> </ul>				10		
10	球技Ⅲ						14		
11	球技Ⅳ						14		
12	体育理論						4		
1	体づくり 運動						5		
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
	①ゲーム中での技能発揮 ②種目における体力向上 ③技能の観察と分析力 ④空間を作る動き		①合理的な動きや運動成果、改善点を仲間に伝える力 ②自己に適した運動の関わり方と合意形成への貢献			①主体的に取り組む姿勢 ②健康安全への理解 ③相手を尊重する態度やフェアなプレイ態度、協調性			
評価方法	各種目において、ゲームや技能テスト等で評価		練習やゲームでの観察による評価 振り返りフォームによる評価			練習やゲームでの観察による評価			

令和7年度シラバス【体育】

長野県伊那北高等学校

科目	保健体育総合	単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学年	3	学科	普通科 文系	
使用教科書	現代高等保健体育	副教材等	なし							
学習の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体としてとらえ、健やかな心身の育成を資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を育成することを目指す。									
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	(1) スポーツの多様な理論や実践、指導に関する課題研究 (2) スポーツに関わる多様な団体、イベントの企画や運営に関する課題研究 (3) スポーツを通じた多様な社会参画に関する課題研究 ※体育・スポーツ系指導者、組織運営・マネジメント等に興味があり、そのような内容に関連した進路を考えている生徒が選択することが望ましい。									
月	指導目標	学習内容			備考	時数				
4 5 6 7 8 9	●興味のあるスポーツの課題について、課題解決に向けた取組立案し計画する力の育成 ●合理的、計画的な解決に向けて、外部組織と連携し研究を深めていく力の育成	(例) ○スポーツに参加する対象者に応じた理論、実践方法、指導の仕方、安全・健康管理について研究する。 ○スポーツクラブ、企業などへ訪問し、インタビュー等を行う。 ○部活動や地域のスポーツクラブにて指導の実践、評価を繰り返す。 ○現時点までの研究内容と今後の計画について発表する。				6  22  6				
10 11 12 1	●実践の評価、収集したデータの分析等をふまえ、課題のまとめに向けて思考し判断する力の育成 ●研究の成果やデータの分析結果、自己の考え等を他者に伝える力の育成	○アンケートや実験データをグラフや写真、動画等ICTを利用し分析、まとめを行う。 ○探究した内容をふまえ、自らの考えを道筋を立てて論理的展開し発表する。				20  10				
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度					
	①スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解している。 ②スポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付けている。		① スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考、判断するとともに、それらを他者に伝えている。		① 生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための課題研究に主体的に取り組もうとしている。					
評価方法	中間、最終発表において、テーマ設定、情報収集、実践等が十分に発展的な学びになっているか。ICTを含むプレゼンテーション、コミュニケーションスキルなどを評価する。		中間、最終発表において、ICT活用、プレゼンテーション、コミュニケーションスキルなどを評価する。		出席を評価。課題研究への取り組み方などを観察し、評価する。					